

ドイツにおけるユダヤ人の歴史年表（4C～1933年）

川上 朋 男

健康鍼灸学科

Zeittafel zur Geschichte der Juden in Deutschland (4C～1933)

Tomoo KAWAKAMI

要 旨

本稿は、ドイツにおけるユダヤ人及び、ユダヤ教に関する主な出来事を、4世紀から1933年まで年代順にまとめたものである。私たちは、この年表から、ヨーロッパキリスト教世界の中で、ユダヤ人が、キリスト教徒と同等の市民権と公民権を獲得していく困難なプロセスを読み取ることが出来るだろう。

キーワード：ユダヤ人、ドイツ、キリスト教徒、同権化、解放

Abstract

This paper summarizes the important affairs pertaining to the Jews and Judaism in Germany in chronological order from 4th century to 1933. This chronological table will make it easier to understand the difficult process of how the Jews living in the European Christendom acquired citizenship and civil rights equal to that of the Christians.

Keywords : Juden, Deutschland, Christ, Gleichheit, Befreiung

- 4C ケルンにユダヤ共同体の存在が確認される。ドイツ及び、アルプス以北で最古の共同体とされる。
- 8C カール大帝 (Karl der Große、在位 768~814)、バグダードのアッバース朝カリフ、ハールーン・アッラシードへ使節団を派遣し、ユダヤ商人イサク (Isaak) を通訳として同行させる。802年イサクはカリフからの贈り物として一頭の白い象を持ち帰る。
- 825 ルートヴィヒ 1 世 (Ludwig I.、在位 814~840)、個々のユダヤ人及び司教座都市リヨンのユダヤ人に特権を与える。
- 9C 後半 カロニウムス一族 (Kalonymus)、ルカ (Lucca) からマインツへ定住する。カロニウムス一族は、13C までドイツで最も重要なユダヤ人家系の一つとされる。
- 1012 ハインリヒ 2 世 (Heinrich II.、ドイツ王・在位 1002~1024、神聖ローマ皇帝・在位 1014~1024)、キリスト教に改宗しないユダヤ人を一時的にマインツから追放する。
- 1028 「捕囚民の光明」とたたえられたマインツのラビ、ゲルショム・ベン・イエフダ (Gerschom ben Jehuda、960~1028)、死去する。彼はマインツに学塾を開き、西ヨーロッパのタルムード研究に主導的役割を果たす。一夫多妻を禁止、離婚時の女性の法的権利を向上させ、偽装改宗後にユダヤ教に再改宗したユダヤ人への侮辱を禁止する。
- 1060 頃 サロモ・ベイ・イサク (Salomo ben Isaak、1040~1105)、マインツ及びヴォルムス (Wormus) でゲルショムの弟子達から学び、その後トロワ (Troyes) へ帰郷し、学塾を開き後進を育成する。ラシ (Raschi) とも呼ばれる。彼の行った聖書とタルムードの注解は、その後の聖書とタルムード研究の重要な手引きとなる。
- 1084 シュパイアー (Speyer) の司祭リューディガー (Rüdiger Huzmann)、シュパイアーにマインツのユダヤ人の定住を奨励し、特権を与える。ユダヤ人は、壁で囲まれた居住区で暮らし、市中で自由に両替や商売を行う。キリスト教徒奉公人の雇用、土地所有、ユダヤ人の法的自治が認められる。
- 1090 ハインリヒ 4 世 (Heinrich IV.、神聖ローマ皇帝・在位 1084~1106)、シュパイアーの「ユダヤ人特権 (Judenprivileg)」を承認し、生命、財産、通商の自由、法的自治、宗教的行為を保障する。同年、ヴォルムスのユダヤ人にも特権を承認する。第 1 回十字軍遠征時は、帝国内の領主にユダヤ人の保護を命令する。十字軍襲撃の際に強制改宗させられたユダヤ人が、ユダヤ教に復帰することを許可する。1103 年「帝国平和令 (Reichslandfrieden)」をマインツで公布する。聖職者、女性等とともに、ユダヤ人も庇護民に含める。また、訴訟や盗品売買に関する規定を定める。
- 1096 第 1 回十字軍がラインラント地方のユダヤ共同体を襲う。ヴォルムス、マインツ、ケルンのユダヤ共同体は壊滅する。シュパイアーでは、司教ヨハン (Johann) の介入により、大部分のユダヤ人は暴徒の襲撃や追放から免れる。
- 1157 フリードリヒ 1 世 (Friedrich I.、神聖ローマ皇帝・在位 1155~1190)、ハインリヒ 4 世がヴォルムスのユダヤ人に与えた特権を更新する。
- 1179 第 3 回ラテラノ公会議 (Drittes Laterankonzil) が開催される。キリスト教徒による利子付き貸付や、ユダヤ人によるキリスト教徒の奴隷保有が禁止される。
- 1179 フリードリヒ 1 世、ライン・フランケン国内平和令 (Landfrieden) 更新に際し、ユダヤ人は皇室の王庫に所属すると規定する。
- 12~13C アシュケナズ系の神秘主義的・敬虔主義運動「ハシディ・アシュケナズ (Chasside Aschkenas)」が起きる。その中心人物は、ユダ・ベン・サムエル・ヘハシード (Juda ben Samuel he-Chassid、1150 頃~1217) とされる。彼は、「敬虔なる者の書 (Sefer Chasidim : Buch der Frommen)」を著す。
- 13C ジュースキント・フォン・トリンベルク (Süßkind von Trimberg、1200 頃~1250 頃)、恋愛歌人、格言歌人として活躍する。
- 1215 第 4 回ラテラノ公会議 (Viertes Laterankonzil) が開催される。ユダヤ人は、キリスト教徒と区別する衣服の着用が義務づけられる。ユダヤ人の公職就任、自由意志で改宗したユダヤ人のユダヤ教への復帰が禁止される。
- 1235 フルダ (Fulda) で「儀式殺人/血の中傷 (Ritualmord)」事件が発生する。5人のキリスト教徒児童殺害疑で 30人以上のユダヤ人が惨殺される。その後、フリードリヒ 2 世の調査により、ユダヤ人は無罪とされる。
- 1236 フリードリヒ 2 世 (Friedrich II.、神聖ローマ皇帝・在位 1220~1250)、ヴォルムス特権 (Das Wormser Privileg) を追認し、帝国内のユダヤ人に適用する。フリードリヒは、ユダヤ人を「皇室の隷民 (Kammerknechte)」と呼ぶ。
- 1241 フランクフルトでユダヤ人が迫害される。キリスト教徒がユダヤ人街を襲撃し、多数のユダヤ人が虐殺される。1325年ユダヤ人が市内に再定住するが、1349年ペスト迫害によりユダヤ共同体は壊滅する。その後、1360年に再びユダヤ人が移住する。

- 1243 ベルリッツ (Berlitz) で「聖体冒瀆／ホスチア冒瀆 (Hostienfrevell/Hostienschändung)」事件が発生する。
- 1243 ローマ教皇・インノケンティウス 4 世 (Innozenz IV.、教皇・在位 1243~1254)、フランス、カスティーリャ、アラゴンに対し、ユダヤ人虐待を非難する。ユダヤ人による高利子設定を批判、ユダヤ人に対する強制洗礼、儀式殺人容疑による迫害、ユダヤ人がキリスト教徒の使用人を自宅に住ませることを非難する。
- 1284 ドイツ国王ルードルフ 1 世 (Rudolf I.、ドイツ国王・在位 1273~1291)、ユダヤ人に新たな税を課し、移動を制限する。それにより、ラビのメイル・ベン・バルーフ (Meir ben Baruch von Rothenburg、1215~1293) や多数のユダヤ人がライン地域からパレスチナに移動する。王は、ユダヤ人は王と諸侯領主の奴隷であるとし、ユダヤ人の財産没収を命令する。1286年メイル・ベン・バルーフは、ルードルフ 1 世に捕らえられ幽閉される。メイルは、当時最も尊敬されたラビの一人とされる。ユダヤ共同体は、高額的身代金支払いによるメイルの釈放を企てるが、メイルはこれを禁じ、拘禁されたまま生涯を終える。彼はローテンブルクに教団を創設し、1000 以上の律法問題回答集レスポンス (Responsen) を書く。
- 1285 ミュンヘンで、「儀式殺人」容疑により、ユダヤ人が迫害される。
- 1287 バッハラッハ (Bacharach) で、「儀式殺人」容疑によるユダヤ人迫害が発生する。バッハラッハ近郊で 16 歳の日雇い労働者ヴェルナー (Werner von Oberwesel) の死体が発見される。彼はユダヤ人による「儀式殺人」の犠牲者と見なされ、ライン川中域、モーゼル川流域でユダヤ人が迫害される。ヴェルナーは殉教者として崇められ、殺害の地に礼拝堂が建立され、巡礼地となる。
- 1298 リントフライシュ (Rintfleisch) 事件が発生する。レッティンゲン (Röttingen) で「聖体冒瀆」のデマをきっかけに、リントフライシュを首謀者とする群衆がユダヤ人街を襲撃する。ユダヤ人への迫害は、ニュルンベルク、ヴェルツブルク、バンベルク、ローテンブルク等の諸都市、さらには、ヘッセン、シュヴァーベン地方にも広がる。
- 1336~1338 アルムレーダー (Armleder=革製籠手) 暴動により、フランケン、アルザス地方でユダヤ人が迫害される。アルムレーダー王と呼ばれたウイシヒハイムの没落貴族アーノルド (Arnold III. von Uissigheim、1298 頃~1336) が、群衆を引き連れレッティンゲンのユダヤ共同体を襲う。迫害はフランケン地方、エルザス地方にも波及する。暴動は鎮圧され、アーノルドは処刑されるが、殉教者として崇められる。
- 1338 バイエルン公国 (Herzogtum Bayern) の都市デッケンドルフ (Deggendorf) で、侯爵領太守と裁判官が共謀したユダヤ人迫害が発生する。その後、ニーダーバイエルン (Niederbayern) の 20 ヶ所以上の町でも迫害が広がる。後に、迫害の原因は、ユダヤ人による「聖体冒瀆」によるものと正当化される。
- 1342 ルートヴィヒ 4 世 (Ludwig IV. der Bayer、神聖ローマ皇帝・在位 1328~1347 年)、人頭税として「黄金の献金ペニヒ硬貨 (Goldener Opferpfennig)」を導入する。20 グルデン金貨以上の収入がある 12 歳以上のユダヤ人は、他の諸税以外に毎年 1 グルデン金貨を納めることが義務づけられる。
- 1348~1350 ペスト迫害が起こる。1347年に中央アジアからイタリア・シチリア島に上陸し、ヨーロッパ全域に広がったペストの原因について、ユダヤ人が井戸に毒を投げ入れたためだとのデマが広まり、ヨーロッパ中でユダヤ人が迫害される。約 300 のユダヤ共同体が滅ばされ、生存者の多くは北イタリア、ポーランドへ移住する。帝国都市レーゲンスブルク (Regensburg) では、市議会や市民の保護によりユダヤ共同体は迫害を免れる。
- 1356 カール 4 世 (Karl IV.、神聖ローマ皇帝・在位 1355~1378)、「金印勅令 (Goldene Bulle)」を發布する。特別の税金 (ユダヤ人税) と引き替えにユダヤ人を保護する義務が、皇帝から選帝侯に譲渡される。
- 1390 ヴェンツェル王 (Wenzel、ドイツ王・在位 1376~1400)、「債務償却法 (Judenschuldentilgungen)」により、領主、貴族、家臣のユダヤ人債務を免除させる。
- 1431 バーゼル公会議 (Basler Konzil) が開催される。ユダヤ人とキリスト教徒間の結婚、ユダヤ人によるキリスト教徒の雇用、ユダヤ人の公職就任、ユダヤ人医師によるキリスト教徒の診察等が禁じられる。また、衣服の識別表示義務 (第 4 回ラテラノ公会議) が更新される。
- 1420/21 オーストリア公アルブレヒト 5 世 (Albrecht V. 1404~1439、Albrecht II 1438~1439) により、ウィーンでユダヤ人迫害 (Wiener Gesera) が発生する。ユダヤ人の集団自殺、キリスト教徒による火刑、ユダヤ人の子供への強制洗礼が起きる。
- 1424 ケルンからユダヤ人が追放される。ペスト迫害後の 1372 年にケルン市は再びユダヤ人を受け入れるが、1423 年市は 10 月に失効するユダヤ人滞在契約の延長を不許可とし、1424 年に全てのユダヤ人をケルンから追放する。ユダヤ人の不在は、1794 年に市がフランス革命軍に占領されるまで続く。
- 1424 フライブルクからユダヤ人が追放される。

- 1435 シュパイアーからユダヤ人が追放される。
- 1438 アウクスブルクからユダヤ人が追放される。市議会は、ユダヤ人が2年以内に市を立ち去ることを決議する。
- 1442 ミュンヘンからユダヤ人が追放される。
- 1445 イスラエル・ベン・ペタヒャー・イッセルレイン (Israel ben Petachja Isserlein, 1390~1460)、ウィーン・ノイシュタット (Wiener Neustadt) のラビに任命される。イッセルレインは、15Cの著名なラビとされる。彼のレスボンサ集「テルマツト・ハ＝デシェン (Terumat haDeschen)」は名高い。
- 1453 ブレスラウ (Breslau) で「聖体冒瀆」事件が発生する。フランシスコ会修道士ヨハネス・カペストラノ (Johannes Capistrano, 1386~1456) の狂信的説教が、ユダヤ人迫害を引き起こす。カペストラノは、当時影響力の大きい反ユダヤ教説教師とされる。
- 1462 フランクフルトで、ユダヤ人街 (Frankfurter Judengasse) が建設される。
- 1475 トレント (Trient) で、「儀式殺人」事件が発生する。幼児シモン (Simon) がユダヤ人による儀式殺人の犠牲者とされ、ユダヤ人が火刑、追放処分される。1582年シモンがカトリックで列聖される (1965年に撤回される)。
- 1478 パッサウ (Passau) で、ユダヤ人成人男性全員が「聖体冒瀆」容疑で逮捕され、処刑、強制改宗、追放処分される。
- 1492 「シュテルンベルク・聖体冒瀆裁判 (Sternberger Hostienschänderprozess)」が開かれる。シュテルンベルクの司祭が債権者のユダヤ人にホスチアを渡し、ユダヤ人達が結婚式でホスチアを汚した、との嫌疑でメクレンブルク (Mecklenburg) のユダヤ人が逮捕、尋問される。裁判の結果、27名が火刑となり、メクレンブルクのユダヤ人は追放処分となる。司祭も火刑に処される。
- 1499 ニュルンベルクからユダヤ人が追放される。
- 1509 改宗ユダヤ人のヨハネス・プフェッファーコルン (Johannes Pfefferkorn, 1469~1522)、マクシミリアン1世 (Maximilian I.、神聖ローマ皇帝・在位 1493~1519) に委任され、フランクフルト、マインツ、ビンゲン等でヘブライ語書物を押収する。市当局や大司教、ユダヤ人の抗議を受け、皇帝は委員会による調査を命じる。委員会に招聘されたキリスト教徒で人文主義者、ヘブライ語学者のヨハネス・ロイヒリーン (Johannes Reuchlin, 1455~1522) は、ヘブライ語書物の保存必要性、ドイツの大学におけるヘブライ語講座の開設を進言する。皇帝は書物の押収、焼却を取り止め、押収物の返還を命じる。ロイヒリーンは、プフェッファーコルンやドミニコ修道会士達によるヘブライ語書物への排撃を批判し、両者による長期論争が起こる。
- 1510 「ベルリン・聖体冒瀆裁判 (Berliner Hostienschänderprozes)」が開かれる。マルク・ブランデンブルク (Mark Brandenburg) のユダヤ人に対し、「聖体冒瀆」「儀式殺人」嫌疑がかけられ、100人以上が逮捕される。裁判の結果41人が有罪とされ処刑される。その後、ユダヤ人はマルク・ブランデンブルクから追放される。1539年の諸侯会議で、キリスト教神学者フィリップ・メランヒトン (Philipp Melanchthon, 1497~1560) は、ユダヤ人達が濡れ衣を着せられたことを立証する。
- 1519 レーゲンスブルクで、ユダヤ人が追放される。マクシミリアン1世死去後、レーゲンスブルク市議会は、ユダヤ人追放を決議する。
- 1523 マルティン・ルター (Martin Luther, 1483~1546)、「イエス・キリストはユダヤ人としてお生まれになった (Daß Jesus Christus ein geborner Jude sei)」を著し、ユダヤ人を擁護する。
- 1530 ヨーゼル・フォン・ロースハイム (Josel von Rosheim, 1478~1554)、神聖ローマ帝国のアウクスブルク帝国議会で、改宗ユダヤ人アントーニウス・マルガリータ (Antonius Margaritha, 1492~1542) と論争、反ユダヤ的な非難を論破する。マルガリータはアウクスブルクから追放される。また、帝国の全ユダヤ人を代表し、帝国議会においてユダヤ人法を成立させる。彼は生涯を通じて、全ユダヤ人の代弁者として皇帝や領主達と交渉し、ユダヤ人の迫害・追放阻止、ユダヤ人の保護と権利の実現に尽力する。
- 1543 ルターは著書「ユダヤ人と彼らの虚偽について (Von den Juden und ihren Lügen)」で、反ユダヤ的態度を鮮明にする。
- 1544 カール5世 (Karl V.、神聖ローマ皇帝・在位 1519~1556)、ユダヤ人特権 (Großes Speyrer Judenprivileg) を更新する。
- 1556 ブランデンブルク選帝侯ヨアヒム2世 (Joachim II.、在位 1538~1571)、リップoldt (Lippold, 1530頃~1573) を宮廷御用人、王室財産管理人、マルク・ブランデンブルクのユダヤ人の長に任命する。彼は1567年貨幣鑄造官に就任する。選帝侯の急死後、選帝侯殺害の嫌疑をかけられ処刑される。
- 1590頃 ハンブルクにセファルディム (Sephardim) が定住する。彼らの多くはイベリア半島出身で、貿易に従事する。

- 1592 歴史家、天文学者、地理学者のダーフィット・ベン・ザーロモン・ガンス (David ben Salomon Gans、1541~1613)、ユダヤ史「ツェマハ・ダヴィド (Zemach David)」を著す。
- 1602 ユダヤの物語、伝説、民話を集めた「マアセ書 (Maassebuch)」のヘブライ語版がバーゼルで出版される。ドイツ語版は1612年にギーセンで出版される。
- 1603 フランクフルトで、「ラビ協議会 (Rabbinerversammlung)」が開催される。
- 1614 フェットミルヒ (Fettmilch) 暴動が発生する。フランクフルトで、レープクーヘン製造者 (Lebkuchenbäcker) のヴィンツェンツ・フェットミルヒ (Vinzenz Fettmilch、1565/70~1616) に率いられた同調者がユダヤ人街を襲撃する。暴動はその後鎮圧され、首謀者達は処刑される。追放されたユダヤ人は、1616年に皇帝マティアス (Matthias、神聖ローマ皇帝・在位 1612~1619) の保護のもとフランクフルトに戻る。暴動の根底には、上層市民が支配する市参事会と市民・同業組合 (Zunft) の対立があるとされる。
- 1622 ヤーコブ・バセヴィ・シュヌーレス・フォン・トロイエンベルク (Jacob Bassevi Schnules von Treuenberg、1580~1634)、ハプスブルクのフェルディナント2世 (Ferdinand II.、神聖ローマ皇帝・在位 1619~1637) により、ハプスブルク君主国 (Habsburgermonarchie) における初めてのユダヤ人貴族に列せられる。彼は、宮廷ユダヤ人としてルドルフ2世 (Rudolf II.、神聖ローマ皇帝・在位 1576~1612) とフェルディナント2世に仕える。30年戦争 (Dreißigjähriger Krieg、1618~1648) では、フェルディナント2世の宮廷銀行家として戦争遂行に貢献する。
- 1642 ヴェルツブルクからユダヤ人が追放される。
- 1648 ボグダン・フメリニツキ (Bogdan Chmielnicki、1595~1657) の反乱が発生する。ウクライナでフメリニツキに率いられたコサックが、ポーランドの地方貴族に反乱し、多数のポーランド人とユダヤ人を殺害する。ウクライナのユダヤ人社会は壊滅的打撃を被り、多数のユダヤ人がドイツへ流入する。
- 1649 ハンブルクからユダヤ人が追放される。
- 1665 サバタイ・ツヴィ／シャブタイ・ツヴィ (Sabbatai Zwi、1626~1676) のメシア運動が起こる。サバタイ・ツヴィは、1665年自らをメシアと宣言する。メシア運動は北アフリカとヨーロッパに広がる。彼は1666年にオスマン帝国当局に逮捕され、イスラームに改宗する。
- 1670 レーオポルト1世 (Leopold I.、神聖ローマ皇帝・在位 1658~1705)、ウィーンとニーダーエスターライヒ (Niederösterreich) からユダヤ人を追放する。
- 1671 ブランデンブルク選帝侯・プロイセン公フリードリヒ・ヴィルヘルム (Friedrich Wilhelm、在位 1640~1688)、ウィーンから追放された裕福なユダヤ人50家族をブランデンブルクに受け入れる。居住場所選択や家屋購入が許可され、在住期間は20年間とされる。また、彼らには保護金納付が課せられる。
- 1679 ザームエル・オッペンハイマー (Samuel Oppenheimer、1630~1703)、レーオポルト1世の軍御用商人となる。皇帝の対オスマン戦争、対フランス戦争の際は、武器、糧食、兵士、戦費の調達に貢献する。
- 1691 グリュッケル・フォン・ハーメルン (Glückel von Hameln、1646~1724)、「回想録 (Die Memoiren)」を書き始める。ハーメルンは、自伝を書いたドイツで最初の女性となる。イディッシュ語の回想録では、当時のユダヤ人の日常生活が描かれる。ハーメルンは、ハンブルクの裕福な家庭で生まれ、14才でユダヤ人商人と結婚し、12人の子供を養育する。夫の死後、夫の事業を引き継ぎ、発展させる。その後銀行家と再婚するが、夫の事業が破綻する。夫との死別後、彼女は回想録を書き始める。
- 1697 ベーレント・レーマン (Berend Lehmann、1661~1730)、ザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト1世 (Friedrich August I. von Sachsen 在位 1694~1733、August II. [Polen-Litauen] 在位 1697~1706、1709~1733) によってニーダーザクセン (Niedersachsen) のポーランド弁理公使に任命される。レーマンは、アウグストがポーランド王位を獲得するための資金を用立てる。彼は当時、中・東部ヨーロッパで最も著名なユダヤ人の一人とされる。
- 1700 ルーベン・エーリアス・ゴンペルツ (Ruben Elias Gomperz、1655~1705)、クレーヴェ (Kleve) とマルク (Mark) の上級徴税官 (Oberrezeptur) に任命される。ゴンペルツ一族は、宮廷御用人を輩出した一族である。
- 1700 ハイデルベルク大学・ヘブライ語教授ヨハン・アンドレアス・アイゼンメンガー (Johann Andreas Eisenmenger、1654~1704)、反ユダヤ的な書物「暴露されたユダヤ教 (Entdecktes Judenthum)」を著す。
- 1703 ザムゾン・ヴェルトハイマー (Samson Wertheimer、1658~1724)、レーオポルト1世によって宮廷御用人に任命される。彼はヴォルムス出身で、1648年にウィーンに移り、当時の宮廷ユダヤ人ザームエル・オッペンハイマーとともにレーオポルト1世に仕える。オッペンハイマーの死後、後継者として重用される。彼はハンガリー主席ラビ

も務める。

- 1726 神聖ローマ皇帝カール6世 (Karl VI.、神聖ローマ皇帝・在位 1711~1740)、ボヘミア、モラヴィア、シュレージエンのユダヤ人数を抑制するため「家族制限法 (Familiantengesetze)」を導入する。
- 1730 プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム1世 (Friedrich Wilhelm I.、在位 1713~1740)、「一般特権規定 (Das Generaljudenreglement)」を發布し、国内でのユダヤ人処遇についての一般原則を示す。
- 1738 ヴュルテンベルク公カール・アレクサンダー (Karl Alexander、在位 1733~1737) の宮廷ユダヤ人ヨーゼフ・ズューズ・オッペンハイマー (Joseph Süß Oppenheimer、1692~1738)、処刑される。オッペンハイマーは、政治・財政顧問としてヴュルテンベルク公に仕え権勢を誇るが、公の死後、反逆罪、公金着服、キリスト教徒女性との性交渉等の嫌疑をかけられ、絞首刑にかけられる。彼は「ユダヤ人ズューズ」と呼ばれ、この名はユダヤ人の権勢欲、金銭欲、狡猾さを表す言葉となる。
- 1744 マリア・テレジア (Maria Theresia、オーストリア大公・ハンガリー女王・ボヘミア女王 在位 1740~1780)、プラハとボヘミアからユダヤ人を追放する。
- 1750 プロイセン王フリードリヒ2世 (Friedrich II.、在位 1740~1786)、「改訂一般特権規定 (Erlaß eines Revidierten General-Privilegiums und Reglements für die Judenschaft im Königreich Preußen)」を公布する。ユダヤ人は、経済的な価値観から6つのカテゴリーに区分される。
- 1751 「アルトナのラビ論争 (Altonaer Rabbinerstreit)」が起きる。タルムード学者、エムデンのラビで印刷所所有者のヤーコプ・エムデン (Jakob Emden、1697~1776) は、アルトナの首席ラビであるヨナタン・アイベンシュッツ (Jonathan Eibenschütz、1690~1764) が、偽メシア、サバタイ・ツヴィの教義を密かに広めていると非難し、「アルトナのラビ論争」を引き起こす。
- 1760 東欧のハシディズム (Chassidismus) の開祖イスラエル・ベン・エリエゼル／バアル・シュム・トーヴ (Israel ben Elieser／Baal Schem Tov、1700~1760)、死去する。
- 1769 マイアー・アムシェル・ロートシルト (Mayer Amschel Rothschild、1744~1812)、ヘッセンのヴィルヘルム皇太子 (Erbprinz Wilhelm von Hessen、1743~1821、1785年ヘッセン＝カッセル方伯・ヴィルヘルム9世、1803年ヘッセン選帝侯・ヴィルヘルム1世) の宮廷御用人となる。マイアーは巨富を築き、ヨーロッパの財閥・ロートシルト家の創始者となる。
- 1772 イーザッハー・ファルケンゾーン・ベアー (Isacher Falkensohn Behr、1746~1817)、「あるポーランド系ユダヤ人の詩 (Vom einem polnischen Juden)」を発表する。ベアーは、ドイツ語を話す最初のユダヤ人の詩人とされる。
- 1776 頃 ファニー・フォン・アルンシュタイン (Fanny von Arnstein、1758~1818)、ウィーンで初めての文学サロンを開く。ファニーの夫は、ユダヤ人銀行家ナタン・アダム・フォン・アルンシュタイン (Nathan Adam von Arnstein) であり、彼女はベルリンからクリスマスツリーの習慣をウィーンにもたらしたとされている。ウィーン会議開催時には、彼女のサロンには多くの政治家、学者、芸術家、ジャーナリストが出入りする。
- 1778 貧しいユダヤ人の子どものために、ベルリンで授業料無料の「ベルリン自由学校 (Jüdische Freischule Berlin)」が創設され、1781年に開校される。学校では、語学 (ヘブライ語、ドイツ語、フランス語)、宗教、宗教以外の科目の授業が開講され、一般教養を与える最初のユダヤ人学校となる。学校の維持費を賄うため、印刷所が設けられる。1806年以降キリスト教徒の子どもも受け入れるようになる。1825年に閉校となる。
- 1779 ゴットホルト・エフライム・レッシング (Gotthold Ephraim Lessing、1729~1781)、「賢者ナタン (Nathan der Weise)」を発表する。主要作品として、1766年芸術論「ラオコオン (Laokoon)」、1767年喜劇「ミンナ・フォン・バルンヘルム (Minna von Barnhelm)」、1772年悲劇「エミーリア・ガロッチェ (Emilia Galotti)」等がある。
- 1780 頃 ヘンリエッテ・ヘルツ (Henriette Julie Herz、1764~1847)、ベルリンで文学サロンを開く。ジャン・パウロ (Jean Paul、1763~1825)、フリードリヒ・シュレーゲル (Friedrich von Schlegel、1772~1831)、ルートヴィヒ・ベルネ (Ludwig Börne、1786~1837) 等が出入りする。彼女は1817年にプロテスタントに改宗する。夫マルクス・ヘルツ (Marcus Herz、1747~1803) は著名なユダヤ人医師で、哲学者カントの下で学ぶ。また、彼はメンデルスゾーンやユダヤ人啓蒙主義者と交流する。1787年プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム2世 (Friedrich Wilhelm II.、在位1786~1797) から哲学教授の称号を授与される。
- 1781 プロイセンの外交官、歴史家でキリスト教徒のクリスティアン・ヴィルヘルム・フォン・ドーム (Christian Wilhelm von Dohm、1751~1820)、「ユダヤ人の市民的改善について (Über die bürgerliche Verbesserung der Juden)」を出版する。同書は啓蒙主義時代後半における重要な著作とされる。

- 1782 神聖ローマ皇帝ヨーゼフ2世 (Joseph II.、神聖ローマ皇帝・在位 1765~1790)、「ウィーンとニーダーエスターライヒのユダヤ人に対し、寛容令 (Toleranzpatente)」を發布する。ユダヤ人に信仰の自由、子どもの公立学校入学を認め、職業や居住の制限が撤廃される。
- 1782 ハルトヴィヒ・ヴェッセリー (Hartwig Wessely、1725~1805)、「ディヴレイ・シャローム・ヴェエメット (Divrei Shalom we-Emet) = 平和と真実の言葉 (Worte des Friedens und der Wahrheit)」を著す。ヴェッセリーは、近代ヘブライ語文学の代表者の一人とされる。
- 1783 モーゼス・メンデルスゾーン (Moses Mendelssohn、1729~1786)、「エルサレム、あるいは宗教の力とユダヤ教について (Jerusalem oder über religiöse Macht und Judenthum)」を発表する。メンデルスゾーンは、ドイツ・ユダヤ啓蒙主義 (ハスカラー、Haskalah) のリーダーであり、当時カントと並ぶ高名な哲学者と称される。ドイツの啓蒙主義者、劇作家、批評家のレッシングと交友関係を結び、レッシングの戯曲「賢者ナータン」のモデルと言われる。1767年「ファイドン、あるいは靈魂不滅に関する三つの対話 (Phädon oder über die Unsterblichkeit der Seel in drei Gesprächen)」を著す。同書は版を重ね、10カ国語に翻訳される。また、トーラー (Torah) のドイツ語翻訳も行う。モーゼスは、作曲家フェーリクス・メンデルスゾーンの祖父にあたる。
- 1783 ファイテル・ハイネ・エーフライム (Veitel Heine Ephraim、1703~1775)、ベルリンで「ファイテル・ハイネ・エーフライム学院 (Veitel Heine Ephraimsche Lehranstalt)」を創設する。彼は宮廷御用人、宮廷宝石商であり、フリードリヒ2世の命により低品質の貨幣 (エーフライム硬貨) の鋳造を行う。1762年ベルリン市内の家屋を購入し、ベルリンで最も豪華と評された「エーフライム宮殿 (Ephraim-Palais)」を建築する。
- 1783 ケーニヒスベルク (Königsberg) でヘブライ語の月刊誌「ハメアセフ (Ha-Meassef: Der Sammler)」刊行される。
- 1788 ザウル・アッシャー (Saul Ascher、1767~1822)、「ユダヤ人の市民的改善についての覚書 (Bemerkungen über die bürgerliche Verbesserung der Juden)」を発表する。1792年「レヴィヤタン、或いはユダヤ教から見た宗教 (Leviathan oder über Religion in Rücksicht des Judentums)」を著す。
- 1791 ダーニエル・イツィヒ (Daniel Itzig、1723~1799) とその家族は、フリードリヒ・ヴィルヘルム2世からプロイセンのユダヤ人として初めて「プロイセン国籍付与特権 (Naturalisationspatent)」を与えられ、プロイセン市民となる。彼は7年戦争 (Siebenjähriger Krieg、1756~1763) の際、フリードリヒ2世 (Friedrich II.、1712~1786) のために戦費調達に貢献する。1764年フリードリヒ2世からベルリン・ユダヤ共同体代表に任命される。彼は18世紀最も重要なプロイセン銀行家の一人とされる。
- 1791 フランスで、ユダヤ人解放令發布される。解放令は、ナポレオンに征服されたヨーロッパ地域にも適用される。
- 1792 ザーロモン・マイモン (Salomon Maimon、1753~1800)、「自伝 (Salomon Maimons Lebensgeschichte)」を著す。ザーロモンは、リトアニア出身の哲学者、啓蒙主義者で、カントの批判哲学の研究で知られる。
- 1796 フランス革命軍、フランクフルトを包囲し攻撃する。戦禍はユダヤ人街 (ゲッター) に及び、北側地区が炎上し、フランクフルト・ユダヤ人街は消滅する。
- 1800頃 ラーエル・ファルンハーゲン・フォン・エンゼ (Rael Varnhagen von Ense、1771~1833)、ベルリンで文芸サロンを開く。ヴィルヘルム・フォン・フンベルト (Wilhelm von Humboldt、1767~1835)、アレクサンダー・フォン・フンベルト (Alexander von Humboldt、1769~1859)、ルートヴィヒ・ティーク (Ludwig Tieck、1773~1853)、フリードリヒ・シュレーゲル等がサロンに出入りする。彼女は1814年、外交官、歴史家、文芸批評家のカール・アウグスト・ファルンハーゲン・フォン・エンゼ (Karl August Varnhagen von Ense、1785~1858) と結婚し、キリスト教に改宗する。その後、彼女はベルリンで二度目のサロンを開く。ハインリヒ・ハイネ、ルートヴィヒ・ベルネ等がサロンの常連客となる。
- 1801 商人、銀行家でユダヤ教改革運動先駆者のイスラエル・ヤーコプゾン (Israel Jacobson、1768~1828)、貧しいユダヤ人の子供のために「ゼーゼン・ヤーコプゾン学校 (Jacobson-Schule Seesen)」をゼーゼン (Seesen) で創立する。学校は、1805年にはキリスト教徒の子供も受け入れる。彼は1804年にブラウンシュヴァイク大公領 (Fürstentum Braunschweig) で市民権を得る。1808年ヴェストファーレン王国 (Königreich Westfalen、1807~1813) で、イスラエルの民長老会議 (Konsistoriums der Israeliten) 議長に選出される。1810年シナゴグでの礼拝に、ドイツ語の説教とオルガン演奏を取り入れる。
- 1801 ドロテア・フォン・シュレーゲル (Dorothea von Schlegel、1763~1839)、長編小説「フロレンティーン (Florentin)」を匿名で発表する。彼女は若くして銀行家ジーモン・ファイト (Simon Veit) と結婚するが、離婚し、フリードリヒ・シュレーゲルと再婚する。1804年にプロテスタント、その後1808年にカトリックに改宗する。

- ドロテアは、モーゼス・メンデルスゾーンの娘である。
- 1802 頃 ヘンリエッテ・メンデルスゾーン (Henriette Mendelssohn, 1775~1831)、パリで女子寄宿学校を開設する。彼女の住居はドイツ人の交流の場となる。1812年カトリックに改宗する。ヘンリエッテは、モーゼス・メンデルスゾーンの娘である。
- 1806 ラーツァルス・ベンダーフィット (Lazarus Bendavid, 1762~1832)、「ベルリン自由学校」の校長となる。彼は、数学者、教育者、カント哲学研究者として知られる。
- 1806 月刊誌「ズラミット (Sulamith: Zeitschrift zur Beförderung der Kultur und Humanität unter der jüdischen Nation)」、刊行される。ユダヤ人読者向けの初めてのドイツ語の雑誌となる。
- 1807 パリでユダヤ教の最高意思決定機関サンヘドリン (Sanhedrin) が開かれ、ユダヤ法の政治的規定が破棄される。
- 1807 ヴェストファーレン王国において、ユダヤ人はドイツで初めてキリスト教徒と同等の法的地位を得る。
- 1809 バーデン大公国 (Großherzogtum Baden, 1806~1918)、「ユダヤ人勅令 (Badisches Judenedikt)」を公布し、ユダヤ人の法的身分が改善される。
- 1809 ダーフィット・フリートレンダー (David Friedländer, 1750~1834)、ユダヤ人として初めてベルリン市参事会員に選出される。彼はモーゼス・メンデルスゾーンの友人で且つ精神的後継者であり、ユダヤ人解放の先駆者とされる。1778年ダーニエル・イツィヒとともに「ベルリン自由学校」を創設する。1799年「ユダヤ教の二三の家長がベルリンの監督教区長テラーに宛てた回状 (Sendschreiben an Probst Teller zu Berlin, von einigen Hausvätern jüdischer Religion)」を発表する。
- 1812 フリードリヒ・ヴィルヘルム3世 (Friedrich Wilhelm III., 1770~1840)、「プロイセン国家におけるユダヤ人の市民的状况に関する勅令 (Edikt betreffend die bürgerlichen Verhältnisse der Juden in dem Preußischen Staate)」を發布し、国内に居住し、包括的特権、市民権特権、保護状、営業権を付与されているユダヤ人とその家族を、自国民でありプロイセン国民と見なす、と宣言する。プロイセンのユダヤ人は、特別税や就職制限が廃止され、居住権、土地取得権、教職や地方公務員職就任が認められる。
- 1813 バイエルン王国 (Königreich Bayern, 1806~1918)で、「ユダヤ人勅令 (Edikt über die Verhältnisse der jüdischen Glaubensgenossen im Königreiche Baiern)」が發布され、ユダヤ人の土地所有、公立学校通学、学校開設、共同体設立、シナゴーク建設、墓地造営等が認められる。
- 1815 「ドイツ連邦規約 (Deutsche Bundesakte)」により、ユダヤ人についての規定は、個々の連邦構成諸国に委ねられる。フランスの影響下で成立したユダヤ人の権利は再び後退する。
- 1815 「イスラエル民族の自由学校 (Israelitische Freischule)」がハンブルクで開校される。貧しいユダヤ人男児のために授業料は無料で、1859年からは非ユダヤ人も受け入れる。
- 1817 ユダヤ教改革派、最初の改革派教会「新イスラエル・テンプル (Israelitischer Tempel)」をハンブルクに建設する。ドイツ語による説教、オルガン演奏、合唱が行われる。
- 1819 ヘップ・ヘップ暴動 (Hep-Hep-Unruhen) がドイツ連邦の多くの都市で発生する。手工業者や商人を中心とする群衆が、ヘップ・ヘップという掛け声とともに、ユダヤ人を襲撃する。
- 1819 「ユダヤ人文化学術協会 (Verein für Cultur und Wissenschaft der Juden)」がベルリンで設立される。協会は、「ユダヤ学術雑誌 (Zeitschrift für die Wissenschaft des Judenthums)」を発行する。
- 1819 エドゥアルト・ガンス (Eduard Gans, 1797~1839)、「ユダヤ人文化学術協会」設立に加わり、1821~24年同協会会長に就任する。ガンスは法学者、哲学者であり、ヘーゲルに師事する。1825年キリスト教に改宗する。1826年ベルリン大学法学部員外教授、1828年正教授に任命される。
- 1820 イザーク・マルクス・ヨースト (Isaak Markus Jost, 1793~1860)、「マカベア時代から今日までのイスラエル人の歴史 (Geschichte der Israeliten seit der Zeit der Makkabäer bis auf unsere Tage) 全9巻」を著す。彼は、近代最初のユダヤ人歴史家である。また、彼は「ユダヤ人文化学術協会」会員及び、フランクフルトの博愛学校 (Philanthropin) の教師を努める。
- 1821 イーザク・ベルナイス (Isaak Bernays, 1792~1849)、ハンブルクの共同体に大祭司として招聘される。シナゴークではドイツ語で説教を行う。彼は大学教育を受けた最初のラビの一人で、新正統派ユダヤ教の先駆者の一人とされる。
- 1822 アルバート・モッセ (Albert Mosse, 1846~1925)、憲法調査のため訪独した伊藤博文達に、憲法と行政法を講じる。1886年明治政府の法律顧問として来日し、憲法、市制、町村制の起草に協力する。

- 1822 ザーロモン・オッペンハイム (Salomon Oppenheim、1772~1828)、ユダヤ人として始めてケルンの商工会議所メンバーに選ばれる。彼は1801年にケルン・ユダヤ共同体の設立者の一人となり、その後、共同体の長に選出される。オッペンハイムの銀行は19世紀の重要な銀行となる。
- 1824 ジャコモ・マイアベーア (Giacomo Meyerbeer、1791~1864) 作曲のオペラ「エジプトの十字軍 (Il crociato in Egitto)」、ヴェネツィア、パリ、ロンドンで成功を収め、人気のオペラ作曲家となる。1831年「悪魔のロベール (Robert le diable)」、1836年「ユグノー教徒 (Les Huguenots)」、1849年「預言者 (Le prophète)」を作曲する。1842年ベルリン宮廷歌劇場音楽総監督に就任する。
- 1825 ハインリヒ・ハイネ (Heinrich Heine、1797~1856)、プロテスタントに改宗する。彼の主要作品としては、1826~31年「旅の絵 (Reisebilder)」、詩人としての名声を確立した1827年の「歌の本 (Das Buch der Lieder)」、1844年「ドイツ冬物語 (Deutschland. Ein Wintermärchen)」等が挙げられる。
- 1826 フェーリックス・メンデルスゾーン (Jakob Ludwig Felix Mendelssohn Bartholdy、1809~1847)、「夏の夜の夢 (Ein Sommernachtstraum)」序曲を作曲する。1829年にはバッハ「マタイ受難曲 (Matthäus-Passion)」を復活演奏する。
- 1828 ヴュルテンベルク王国 (Königreich Württemberg、1806~1918)、「ユダヤ教徒の公的生活環境に関する法 (Gesetz in Betreff der öffentlichen Verhältnisse der israelitischen Glaubensgenossen)」を公布する。
- 1832 レーオポルト・ツンツ (Leopold Zunz、1794~1886)、「ユダヤ人の祭祀 (Gottesdienstliche Vorträge der Juden)」を著す。ツンツは、ユダヤ学創始者の一人とされる。1819年には「ユダヤ人文化学術協会」の設立に加わる。1855年「中世のシナゴーク詩 (Die synagogale Poesie des Mittelalters)」、1866年「シナゴーク詩文学史 (Literaturgeschichte der synagogalen Poesie)」を著す。
- 1832 カール・ルートヴィヒ・ベルネ (Karl Ludwig Börne、1786~1837)、「パリ便り (Briefe aus Paris、1830-1831)」を出版する。彼は1818年にプロテスタントに改宗し、1830年パリに定住する。
- 1833/34 画家モーリッツ・ダニエル・オッペンハイム (Mortiz Daniel Oppenheim、1800~1882)、「あるユダヤ義勇兵、古い慣習に従って暮らしている家族の元へ解放戦争から帰還する (Heimkehr eines jüdischen Freiwilligen aus den Befreiungskriegen zu den nach alter Sitte lebenden Seinen)」を制作する。彼は、ユダヤ人の肖像、日常生活、風習を描いた最初のユダヤ人画家とされる。
- 1835 改革派のユダヤ教神学者アブラハム・ガイガー (Abraham Geiger、1810~1874)、学術誌「ユダヤ教神学雑誌 (Wissenschaftliche Zeitschrift für Jüdische Theologie)」を創刊する。1862年には「科学と生活のためのユダヤ人雑誌 (Jüdische Zeitschrift für Wissenschaft und Leben)」を発行する。彼は、ブレスラウ、フランクフルト、ベルリンでラビを務める。
- 1837 ルートヴィヒ・フィリップゾン (Ludwig Philippson、1811~1889)、「ユダヤ教一般新聞 (Allgemeine Zeitung des Judentums)」を発行する。彼は、ラビ、著述家及び、ユダヤ教改革運動家である。1866年の著作「ユダヤ人は本当にイエスを十字架にかけたのか (Haben wirklich die Juden Jesum gekreuzigt?)」は、反響を呼び各国語に翻訳される。
- 1841 律法学者でユダヤ教改革者ザーロモン・フォルムシュテッヒャー (Salomon Formstecher、1808~1889)、「精神の宗教学 (Religion des Geistes)」を著す。
- 1841 ヨーハン・ヤコービ (Johann Jacoby、1805~1877)、パンフレット「東プロイセン人が回答する4つの質問 (Vier Fragen, beantwortet von einem Ostpreußen)」を発表する。1872年に社会民主労働者党 (Sozialdemokratische Arbeiterpartei) に加わり、ドイツ市民としてのユダヤ人の同権化を訴える。
- 1843 ベルトルト・アウエルバッハ (Berthold Auerbach、1812~1882)、「シュヴァルツヴァルトの村物語 (Schwarzwälder Dorfgeschichten)」を刊行する。アウエルバッハは当時の人気作家として知られる。
- 1844 カール・マルクス (Karl Heinrich Marx、1818~1883)、「ユダヤ人問題によせて (Zur Judenfrage)」を発表する。
- 1844 「ブラウンシュヴァイク律法学会議 (Braunschweiger Rabbinerversammlung)」が開催される。ユダヤ教改革派が参加し、礼拝規定や慣習の改革について協議を行う。第2回は1845年にフランクフルトで、第3回は1846年にブレスラウで開催される。
- 1845 ベルリンで、「ユダヤ教改革組合 (Genossenschaft für Reform im Judenthum)」が結成される。
- 1847 プロイセンで、「ユダヤ教徒の境遇に関する政令 (Gesetz über die Verhältnisse der Juden)」が公布される。ポーゼンを除くプロイセンの州で、ユダヤ教徒はキリスト教徒と法的に平等となる。

- 1848 ベルリンで3月革命、ウィーンで3月、10月革命が勃発する。
- 1848 レーオポルト・コンペルト (Leopold Kompert、1822~1886)、短編小説集「ゲッターから (Aus dem Ghetto)」を著す。
- 1848 フランクフルト国民議会 (Frankfurter Nationalversammlung) にユダヤ人議員が出席する。
- 1850 リヒャルト・ヴァーグナー (Richard Wagner、1813~1883)、K. フライゲダंक (Freigedank) という変名で、反ユダヤ的論文「音楽におけるユダヤ (Das Judenthum in der Musik)」を「新音楽雑誌 (Neue Zeitschrift für Musik)」に発表する。
- 1850 フェルディナント・ヒラー (Ferdinand von Hiller、1811~1885)、ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 (Gürzenich-Orchester Köln) の指揮者及び、ケルン音楽院校長に就任する。彼は作曲家であるとともに、当時の高名なピアニストでもある。1875年貴族に列せられる。
- 1851 ツァハリール・フランケル (Zacharias Frankel、1801~1875)、「月刊ユダヤ教史とユダヤ学 (Monatsschrift für Geschichte und Wissenschaft des Judenthums)」を創刊する。彼は1854年から、ブレスラウ・ユダヤ神学校の校長を務める。
- 1853 ハイน์リヒ・グレーツ (Heinrich Hirsch Graetz、1817~1891)、「古代から現代までのユダヤ人の歴史 (Geschichte der Juden. Von den ältesten Zeiten bis auf die Gegenwart)」第4巻を刊行する。彼は1854年に、ブレスラウ・ユダヤ神学校の教師に就任する。1869年「月刊ユダヤ教史とユダヤ学」の編集長となる。1869年プロイセン政府から、ブレスラウ大学名誉教授の称号が授与される。
- 1854 「ブレスラウ・ユダヤ神学校 (Jüdisch-Theologisches Seminar in Breslau)」がブレスラウに開学する。1938年の閉校まで、ヨーロッパで最も重要なラビの養成機関となる。
- 1854 ザムゾン・ラーファエル・ヒルシュ (Samson Raphael Hirsch、1808~1888)、雑誌「イェシュルン. 家庭、共同体、学校におけるユダヤ精神と生活の向上のための月刊誌 (Jeschurun. Ein Monatsblatt zur Förderung jüdischen Geistes und jüdischen Lebens, in Haus, Gemeinde und Schule)」の編集者となる。1836年「ユダヤ教についての19通の手紙 (Neunzehn Briefe über Judenthum)」、1937年「ホレブ：離散状態のユダヤ人の義務に関する試み (Horeb: Versuche über Jisroels Pflichten in der Zerstreuung)」を著す。彼は新正統派ユダヤ教の中心的指導者とされる。
- 1855 「ユダヤ文学振興協会 (Institut zur Förderung isaelitischer Literatur)」がルートヴィヒ・フィーリップゾンによりライプツィヒに設立される。協会は、ユダヤの歴史、宗教、文学等の書籍活動を行う。
- 1856 レーオポルト・ゾンネマン (Leopold Sonnemann、1831~1909)、「フランクフルト商業新聞 (Frankfurter Handelszeitung)」を発行する。彼は1869~80年、フランクフルト市議会議員を務める。
- 1859 数学者モーリッツ・アブラハム・シュテルン (Moritz Abraham Stern、1807~1894)、ドイツにおいて最初のユダヤ人正教授 (ゲッティンゲン大学) となる。
- 1859 リーナ・モルゲンシュテルン (Lina Morgenstern、1830~1909)、「ベルリン・フレーベル主義幼稚園促進女性会 (Berliner Frauen-Verein zur Beförderung der Fröbel'schen Kindergärten)」を共同創設し、1861年から同協会議長となる。彼女は、1866年「ベルリン配給給食所協会 (Verein der Berliner Volksküchen)」、1868年「若い女性の研修のための学院 (Akademie zur Fortbildung junger Damen)」、1873年「ベルリン主婦協会 (Berliner Hausfrauenverein)」等、多くの施設や組織を設立する。1896年には「国際女性会議 (Der Internationale Kongress für Frauenwerke und Frauenbestrebungen)」をベルリンに召集する。また、彼女は、「ドイツ主婦新聞 (Deutsche Hausfrauen-Zeitung)」、料理本、童話等、多彩な出版活動も行う。
- 1860 ガブリエル・リーサー (Gabriel Riesser、1806~1863)、ハンブルクの上級裁判所顧問官 (Obergerichtsrat) に選出され、ドイツ初のユダヤ人裁判官となる。1832年雑誌「ユダヤ人 (Der Jude)」を発行する。1848年ラウエンブルク公国 (Herzogtum Sachsen-Lauenburg、1296~1876) から選出され、フランクフルト国民議会議員となり、副議長も務める。また、彼は、パウロ教会憲法 (Paulskirchenverfassung) 制定に関与する。1849年3月21日の国民議会での演説 (皇帝演説 Kaiserrede) は歴史に残る名演説とされる。1859年ハンブルク市議会議員となり、その後副議長に任命される。
- 1860 アーロン・ダーフィット・ベルンシュタイン (Aron David Bernstein、1812~1884)、田舎のユダヤ人の日常生活を描いた「マギードの鳥 (Vögele der Maggid)」を著す。
- 1862 モーゼス・ヘス (Moses Hess、1812~1875)、シオニズム的著作「ローマとエルサレム (Rom und Jerusalem)」

- を刊行する。1837年には「人類の聖なる歴史 (Die heilige Geschichte der Menschen)」を著す。1841年「ライン新聞 (Rheinische Zeitung)」創刊に加わる。彼はユダヤ系社会主義者で、ドイツにおける社会主義の祖及び、政治的シオニズムの先駆者とされる。
- 1862 バーデン大公国、「ユダヤ人の市民の平等についての法律 (Gesetz über die bürgerliche Gleichstellung der Israeliten)」を公布する。ユダヤ人の完全な法的平等を承認したドイツで最初の国家となる。
- 1862 エトヴィン・オブラー (Edwin Oppler, 1831~1880)、ハノーファーでネオ・ロマネスク様式のシナゴグ建設を行う。彼は、住宅、店舗、邸宅、宮殿、シナゴグ等、多数の建築を手がける。
- 1863 フェルディナント・ラサール (Ferdinand Lassalle, 1825~1864)、「全ドイツ労働者同盟 (Allgemeiner Deutscher Arbeiterverein)」をライプツィヒで設立する。
- 1863 言語学者・哲学者ハイマン・シュタインタール (Heymann Steinthal, 1823~1899)、ベルリン大学助教授に就任する。1872年からはベルリン・ユダヤ学大学で聖書学及び、宗教哲学を教える。1860年義弟モーリッツ・ラツァルス (Moritz Lazarus, 1824~1903) とともに「民族心理学と言語学雑誌 (Zeitschrift für Völkerpsychologie und Sprachwissenschaft)」を発行する。
- 1864 正統派のユダヤ人教師を養成する「ヴェルツブルク・イスラエルの民教師養成学校 (Israelische Lehrerbildungsanstalt Würzburg)」、ゼーリヒマン・ベアー・バンベルガー (Seligmann Bär Bamberger, 1807~1878) によって創立される。彼はドイツの正統派ユダヤ教の代表的指導者とされる。
- 1866 エドゥアルト・ラスカー (Eduard Lasker, 1829~1884)、国民自由党 (Nationalliberale Partei) の結成に参加する。彼はプロイセンの政治家、法律家で、国民自由党以前は進歩党 (Deutsche Fortschrittspartei) に所属し、1867~84年まで帝国議会議員を務める。1876年「離脱法」成立に貢献する。
- 1867 オーストリア・ハンガリー帝国 (Österreichisch-Ungarische Monarchie)、憲法により信仰の自由を保障する。
- 1867 ルードルフ・モッセ (Rudolf Mosse, 1843~1920)、ベルリンで広告業を開始し、ドイツ内外に250以上の支店を築く。1872年「ベルリン日報 (Berliner Tageblatt)」を創刊する。
- 1868 モーリッツ・エルシュテッター (Moritz Ellstätter, 1827~1905)、バーデンの財務大臣に任命される。彼は、ドイツで政府メンバーになった初めてのユダヤ人とされる。
- 1869 北ドイツ連邦 (Norddeutscher Bund, 1867~1871) の「宗教同権法 (Gesetz betreffend die Gleichberechtigung der Konfessionen in bürgerlicher und staatsbürgerlicher Beziehung)」が公布され、信仰の相違により派生した市民的・国民的諸権利の制限が廃止される。これにより、ユダヤ人の法的平等が保証される。
- 1869 改革志向のベルリンのユダヤ共同体から離脱し、律法を遵守するユダヤ人により、「ベルリン・イスラエル・シナゴグ共同体 (Israelitische Synagogen-Gemeinde Adass Jisroel zu Berlin)」が設立される。初代のラビには、正統派ユダヤ教指導者エスリエル・ヒルデスハイマー (Esriel Hildesheimer, 1820~1899) が選ばれる。
- 1869 「ドイツ・イスラエル民族共同体同盟 (Deutsch-Israelitischer Gemeindebund)」、ライプツィヒに設立される。ドイツの49、外国の11の共同体から81人の代表者が参加するドイツで初の超地域的なユダヤ共同体の上部団体となる。同盟は、ユダヤ人の共同体生活における組織的、社会的、教育的問題に取り組む。
- 1871 ドイツ帝国 (Deutsches Kaiserreich, 1871~1918) が成立し、改訂された北ドイツ連邦憲法を帝国全域に適用した帝国憲法 (Verfassung des Deutschen Reiches) が公布される。ドイツにおけるユダヤ人解放は法的レベルで完了されることになる。
- 1871 銀行家マイヤー・カール・フォン・ロートシルト (Mayer Carl Freiherr von Rothschild, 1820~1886)、ユダヤ人として初めてプロイセン貴族院議員となる。彼はフランクフルト銀行を共同設立し、フランクフルト商工会議所会員、バイエルン領事、オーストリア総領事等を歴任する。
- 1871 ルートヴィヒ・バンベルガー (Ludwig Bamberger, 1823~1899)、国民自由党帝国議会議員に選出される。後に、ドイツ自由思想家党 (Deutsche Freisinnige Partei) に所属する。彼は1849年のプファルツ蜂起 (Pfälzischer Aufstand) に関与したため、欠席のまま死刑判決を受け亡命する。恩赦後帰国し、1868年ドイツ関税議会議員となる。彼は財政政策分野で活動し、「ドイツ帝国国立銀行 (Reichsbank 1876~1945)」の設立及び、ライヒスマルク (Reichsmark) 導入に関わる。
- 1871 ルーイ・レヴァンドフスキー (Louis Lewandowski, 1821~1894)、合唱曲「コル・リンナー (Kol Rinnah u Tefillah)」を作曲する。彼は礼拝音楽の作曲家として知られる。
- 1872 「ユダヤ学大学 (Hochschule für die Wissenschaft des Judentums)」、ベルリンで開校される。国家、共同体、

- シナゴグ当局から独立し、ユダヤ学の研究と教育を目的とする。
- 1872 プロイセンのユダヤ系宮廷銀行家、ゲルゾン・フォン・ブライヒレーダー (Gerson von Bleichröder、1822~1893)、プロイセンでユダヤ人として初めて貴族に列せらる。彼はロートシルト銀行の代理人であるが、ビスマルクの個人銀行家となり、財産管理を任せられる。普仏戦争 (Deutsch-Französischer Krieg、1870~71) では、戦費調達、賠償交渉に関与する。また、ベルリンのユダヤ共同体の役員を長期間務める。父親は、ブライヒレーダー銀行を設立したザムエル・ブライヒレーダー (Samuel Bleichröder、1779~1855)である。
- 1876 プロイセン州議会、「離脱法 (Austrittsgesetz)」を可決する。これにより、ユダヤ人はユダヤ教を離れることなく、所属のシナゴグ共同体から離脱することができるようになる。
- 1876 カール・エーミール・フランツォース (Karl Emil Franzos、1848~1904)、ガリツィアのユダヤ人を描写した「半ばアジアより (Aus Halb-Asien)」を著す。
- 1878 プロテスタントの宮廷説教師アドルフ・シュテッカー (Adolf Stoecker、1835~1909)、キリスト教社会労働者党 (Christlich-Soziale Arbeiterpartei、1881年キリスト教社会党 Christliche-Soziale Parteiに改称) を創設する。彼とこの政党は、1870年代末の反ユダヤ主義運動「ベルリン運動 (Berliner Bewegung)」の中核となる。
- 1879 ヴィルヘルム・マル (Wilhelm Marr、1819~1904)、「ゲルマン民族にたいするユダヤ民族の勝利 (Der Sieg des Judenthums über das Germanenthum)」を出版する。マルは、「反セム主義/反ユダヤ主義 (Antisemitismus)」という言葉を造語する。
- 1879 ハイน์リヒ・フォン・トライチュケ (Heinrich Gotthardt von Treitschke、1834~1896)、「十九世紀ドイツ史 (Deutsche Geschichte im neunzehnten Jahrhundert)」第1巻を刊行する。また、同年に「プロイセン年報 (Preußische Jahrbücher)」に反ユダヤ的論文「私たちの展望 (Unsere Aussichten)」を発表し、「ベルリン反ユダヤ主義論争 (Berliner Antisemitismus-Streit)」を引き起こす。
- 1880 ルートヴィヒ・ガイガー (Ludwig Geiger、1848~1919)、ゲーテ研究の中心となる「ゲーテ年鑑 (Goethe-Jahrbuch)」を出版する。
- 1880 ユダヤ人の同権化撤回を要求する「反ユダヤ主義者請願 (Antisemitenpetition)」が実施される。25万人以上の署名が集まり、1881年帝国宰相ビスマルクの許に提出される。
- 1882 「国際反ユダヤ会議 (Internationale antijüdische Kongresse)」、ドレスデンで開催される。
- 1882 ユダヤ民族主義学生結社「カディマ (Kadima)」、ウィーンで結成される。
- 1882 ヘルマン・レーヴィ (Hermann Levi、1839~1900)、バイロイトでリヒャルト・ヴァーグナー (Richard Wagner、1813~1883) の神聖舞台祝典劇「パルジファル (Parsifal)」の初演指揮者となる。彼は1872~96年、ミュンヘン宮廷劇場楽長を務める。
- 1883 銀行家カール・フルステンベルク (Carl Fürstenberg、1850~1933)、1856年創業の銀行「ベルリーナ・ハンデルスゲゼルシャフト (Berliner Handels-Gesellschaft)」の経営者となる。
- 1883 エーミール・ラーテナウ (Emil Rathenau、1838~1915)、「ドイツ・エジソン社 (Deutsche Edison-Gesellschaft)」を設立する。1887年には社名を「AGE (Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaft)」に変更する。
- 1884~88 グスタフ・マーラー (Gustav Mahler、1860~1911)、「交響曲第1番ニ長調：巨人 (1.Sinfonie in D-Dur : Titan)」を作曲する。1892~98年「少年の魔法の角笛 (Des Knaben Wunderhorn)」を作曲する。1897年カトリックに改宗し、その後ウィーン宮廷歌劇場芸術監督に就任する。1901~04年「亡き子をしのぶ歌 (Kindertotenlieder)」、1907~09年「大地の歌 (Das Lied von der Erde)」を作曲する。
- 1884 オーストリアの音楽学者グイド・アドラー (Guido Adler、1855~1941)、「季刊誌・音楽学 (Vierteljahrsschrift für Musikwissenschaft)」を発行する。1898年ウィーン大学の音楽学教授に就任する。彼はウィーン音楽学の創始者とされている。
- 1884 「オーストリア・イスラエル同盟 (Österreichisch-Israelitische Union)」、ウィーン及び、ニーダーエスターライヒで結成される。
- 1890 オーストリアの著述家ナタン・ビルンバウム (Nathan Birnbaum、1864~1937)、「シオニズム (Zionismus)」という用語を用いる。「東欧ユダヤ人 (Ostjuden)」という用語も彼に由来するとされる。1885年雑誌「自己解放 (Selbstemanzipation)」を発行する。
- 1890 キリスト教徒の自由主義者によって、「反ユダヤ主義防止協会 (Verein zur Abwehr des Antisemitismus)」が設立される。反ユダヤ主義的立候補者の当選阻止のための対立候補支持活動、反ユダヤ主義者による中傷、捏造に論

駁するための出版活動等を行う。

- 1891 ゲオルク・カントール (Georg Ferdinand Ludwig Philipp Cantor、1845~1918)、「集合論の一つの基本的問題について (Über eine elementare Frage der Mannigfaltigkeitslehre)」を發表する。
- 1891/92 クサンテン (Xanten) で、「儀式殺人」事件が起こる。
- 1892 ドイツ保守党 (Deutschkonservative Partei)、ベルリンで党綱領 (ティボリ綱領、Tivoli-Programm) を採択する。「我々の民族生活に多方面から侵入する破壊的なユダヤ人の影響と闘う」と明記される。
- 1893 アルトゥール・シュニッツラー (Arthur Schnitzler、1862~1931)、戯曲「アナトール (Anatol)」を發表する。1900年戯曲「輪舞 (Reigen)」、小説「グストル少尉 (Leutnant Gustl)」、1907年小説「自由への道 (Der Weg ins Freie)」を著す。
- 1893 帝国議会選挙で、反ユダヤ主義の議員 16 人 (ドイツ社会党 Deutschsoziale Partei、ドイツ改革党 Deutsche Reformpartei、無党派所属) が選出される。
- 1893 ドイツ国民としてのユダヤ人の権利擁護と反ユダヤ主義の抑止を目的とする「ユダヤ教徒ドイツ国民中央協会 (Central-Verein deutscher Staatsbürger jüdischen Glaubens)」、ベルリンで設立される。ドイツ・ユダヤ人の多数を代表する組織となる。
- 1894 フランスで、ユダヤ人将校アルフレッド・ドレフュス (Alfred Dreyfus、1859~1935) に対するスパイ冤罪事件「ドレフュス事件 (Dreyfus-Affäre)」が起きる。
- 1896 テオドル・ヘルツル (Theodor Herzl、1860~1904)、「ユダヤ人国家 (Der Judenstaat)」を出版し、シオニズム運動のきっかけとなる。彼は1897年に第1回シオニスト会議をバーゼルに召集し、「世界シオニスト機構 (Zionistische Weltorganisation)」の議長に選出される。
- 1896 「ユダヤ教徒ドイツ学生連合 (Kartell-Convent der Verbindungen deutscher Studenten jüdischen Glaubens)」、創立される。
- 1897 マックス・イジドーア・ボーデンハイマー (Max Isidor Bodenheimer、1865~1940)、ヘルマン・シャピラ (Hermann Schapira、1840~1898)、ダーフィット・ヴォルフゾーン (David Wolffsohn、1856~1914) 等により「ドイツ・シオニスト連合 (Zionistische Vereinigung für Deutschland)」が結成される。同連合は、1902年「ユダヤ展望 (Jüdische Rundschau)」を発行する。同連合の前身は、1894年設立の「民族ユダヤ人連合 (National-Jüdische Vereinigung)」である。
- 1897 第1回「シオニスト会議 (Zionistenkongress)」、バーゼルで開催される。ユダヤ民族のためにパレスチナに郷土を建設することを目的とする「バーゼル綱領 (Baseler Programm)」が締結される。
- 1897 カール・ルエガー (Karl Lueger、1844~1910)、ウィーン市長に選出される。彼は激しい反ユダヤ的演説により、大衆の支持を集める。
- 1897 ヴァルター・ラーテナウ (Walther Rathenau、1867~1922)、論文「聞け、イスラエルよ (Höre, Israel!)」を發表する。ラーテナウは、実業家で政治家、第一次世界大戦後は復興相、その後外相を務める。彼の父親は、AEG 創業者のエーミール・ラーテナウである。
- 1898 「ユダヤ民俗学会 (Gesellschaft für jüdische Volkskunde)」が設立され、機関誌「ユダヤ民俗学会報 (Mitteilungen der Gesellschaft für jüdische Volkskunde)」が発行される。
- 1898 「ユダヤ歴史・文学年報 (Jahrbuch für jüdische Geschichte und Literatur)」が、「ユダヤ歴史・文学協会ドイツ連盟 (Verband der Vereine für jüdische Geschichte und Literatur in Deutschland)」から発行される。
- 1899 アルベルト・バリン (Albert Ballin、1857~1918)、「ハンプルク=アメリカ郵船株式会社 (HAPAG: Hamburg-Amerikanische Packetfahrt-Actien-Gesellschaft)」の総裁に就任する。多数の東欧ユダヤ人がこの船会社を通じてアメリカに移民する。
- 1899 カール・クラウス (Karl Kraus、1874~1936)、評論雑誌「たいまつ (Die Fackel)」を創刊する。1911年カトリックへ改宗する。1918/19年戯曲「人類最後の日々 (Die letzten Tage der Menschheit)」を發表する。1923年カトリックから離れる。
- 1899 エドゥアルト・ベルンシュタイン (Eduard Bernstein、1850~1932)、「社会主義の前提と社会民主主義の任務 (Die Voraussetzungen des Sozialismus und die Aufgaben der Sozialdemokratie)」を發表し、社会民主党内に修正主義論争を引き起こす。彼は社会民主主義の理論家であり、1902~07年、1912~18年 (一時期独立社会民主党員)、1920~28年の間、社会民主党・国会議員を務める。1921年には「ゲルリッツ綱領 (Görlitzer

- Abkommen)」作成に関与する。
- 1900 アブラハム・ベルリーナー (Abraham Berliner、1833 ~1915)、「中世におけるドイツのユダヤ人の生活から (Aus dem Leben der Juden Deutschlands im Mittelalter)」を著す。1874年には「ユダヤ人の歴史と文学雑誌 (Magazin für jüdische Geschichte und Literatur)」を発行する。
- 1900 エーフライム・モーゼス・リリーエン (Ephraim Moses Lilien、1874~1925)、ベリエス・フォン・ミュンヒハウゼン (Börries von Münchhausen) の詩に挿絵を付けた「ユダ (Juda)」を著す。1903年には「ゲッターの歌 (Lieder des Ghetto)」を出版する。彼は、ミュンヘン、ベルリンで雑誌や書物の挿絵画家として活動する。
- 1900 ジークムント・フロイト (Sigmund Freud、1856~1939)、「夢判断(Die Traumdeutung)」を出版する。1917年「精神分析入門 (Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse)」を著す。
- 1900 エドムント・フッサール (Edmund Husserl、1859~1938)、「論理学研究第1巻 (Logische Untersuchungen Band 1)」を著す。1913年「純粹現象学と現象学的哲学のための諸構想 (Ideen zu einer reinen Phänomenologie und phänomenologischen Philosophie)」第1巻を著す。
- 1900 劇評家アルフレート・ケル (Alfred Kerr、1867~1948)、ベルリンの新聞「デア・ターク (Der Tag)」に演劇批評を寄稿する。1919年から「ベルリン日報」や「フランクフルト紙 (Frankfurter Zeitung)」にも寄稿する。
- 1901 カール・ヴォルフスケール (Karl Joseph Wolfskehl、1869~1948)、シュテファン・ゲオルゲ (Stefan George、1868~1933) とともに、「ドイツ詩 (Deutsche Dichtung)」を編集する。彼は、抒情詩人、エッセイストで、1919年までの彼の詩はゲオルゲ派の機関誌「芸術草紙 (Blätter für die Kunst)」に掲載される。
- 1901 「ドイツ・ユダヤ人援助協会 (Hilfsverein der deutschen Juden)」、ベルリンで設立される。東欧、近東で経済的・社会的に困窮しているユダヤ人の支援組織となる。
- 1901 ユダヤ文化雑誌「東と西 (Ost und West)」、ベルリンで発行される。
- 1902 「ユダヤ学振興協会 (Gesellschaft zur Förderung der Wissenschaft des Judentums)」、ベルリンで設立される。
- 1902 「ユダヤ出版社 (Jüdischer Verlag)」が、マルティーン・ブーバー (Martin Buber、1878~1965)、ダーフィス・トリーチェ (Davis Trietsch、1870~1935) 等によってベルリンで設立される。
- 1902 オーストリアの作家フーゴ・フォン・ホーフマンスタール (Hugo von Hofmannsthal、1874~1929)、「チャンドス卿の手紙 (Der Brief des Lord Chandos)」を著す。1911年歌劇「ばらの騎士 (Der Rosenkavalier)」、戯曲「イエーダーマン (Jedermann)」を発表する。
- 1904 「ユダヤ女性同盟 (Jüdischer Frauenbund)」、設立される。ユダヤ人女性の教育・職業の改善、ユダヤ共同体における女性の参政権獲得、少女売買廃止、未婚女性への援助等の活動を行う。
- 1904 ベルタ・パッペンハイム (Bertha Pappenheim、1859~1930)、「ユダヤ女性同盟」を共同設立し、会長に選出される。彼女は1895年、ユダヤ少女孤児院の院長となる。1907年ノイ・イーゼンブルク (Neu-Isenburg) に、危険に晒された少女や未婚女性及び、子どものための保護・教育ホームを設立する。1910年グリュッケル・フォン・ハーメルンの回想録をイディッシュ語から翻訳する。1924年東欧、近東における少女売買・売春に関する報告書「シシュポスの仕事 (Sisyphus-Arbeit)」を発行する。彼女は多くの機関や施設の設立に関わり、ドイツにおけるユダヤ女性解放運動の先駆者とされる。なお、1895年発行のジークムント・フロイトとヨーゼフ・ブロイアー (Josef Breuer、1842~1925) の共著「ヒステリー研究 (Studien über Hysterie)」に取り上げられているアンナ O 嬢 (Anna O.) とは、パッペンハイムのことである。
- 1905 レオ・ベック (Leo Beck、1873~1956)、「ユダヤ教の本質 (Das Wesen des Judentums)」を刊行する。彼は1922年、「ドイツ一般ラビ連盟 (Allgemeiner Rabbiner-Verband)」の会長に就任する。
- 1905 マックス・ラインハルト (Max Reinhardt、1873~1943)、ドイツ座 (Deutsches Theater) の監督となる。1911年フーゴ・フォン・ホーフマンスタールの「イエーダーマン」、リヒャルト・シュトラウスの「ばらの騎士 (Der Rosenkavalier)」を初演する。1920年ザルツブルク芸術祭 (Salzburger Festspiele) を共同開催する。彼は演出家として名声を博し、数々の劇場を設立し、多くの俳優や演出家を育てる。
- 1905 「ドイツ・ユダヤ人総合文書館 (Gesamtarchiv der deutschen Juden)」、ベルリンで設立される。
- 1905 アドルフ・フォン・バイヤー (Johann Friedrich Wilhelm Adolf von Baeyer、1835~1917)、有機染料およびヒドロ芳香族化合物の研究でノーベル化学賞を受賞する。
- 1905 演劇雑誌「ディ・シャオビューネ (Die Schaubühne)」、劇作家ジークフリート・ヤーコブゾーン (Siegfried Jacobsohn、1881~1926) によって創刊される。1918年「ディ・ヴェルトビューネ (Die Weltbühne)」に改称し、

政治・経済・文化を扱う左翼系知識人向け雑誌となる。1926年にはクルト・トゥホルスキー (Kult Tucholsky、1890~1935)、1927年からはカール・フォン・オシエツキー (Carl von Ossietzky、1889~1938) が同雑誌の編集者となる。

- 1906 ゲオルク・ヘルマン (Georg Hermann、1871~1943)、「イエットヘン・ゲーベルト (Jettchen Gebert)」を著す。1840年代ベルリンのユダヤ人家庭を舞台にしたこの作品は、1908年発表の「ヘンリエッテ・ヤコビー (Henriette Jacoby)」とともにベストセラーになる。
- 1906 テーオドル・ヴォルフ (Theodor Wolff、1868~1943)、「ベルリン日報 (Berliner Tageblatt)」の編集長 (~1933) に就任し、同紙を最も影響力のある首都新聞に育てる。
- 1908 パウル・エールリヒ (Paul Ehrlich、1854~1915)、免疫の研究でノーベル生理・医学賞を受賞する。
- 1908 ゲオルク・ジンメル (Georg Simmel、1858~1918)、「社会学 (Soziologie)」を著す。両親はキリスト教に改宗する。彼は、ヴィルフレド・パレート (Vilfredo Pareto、1848~1923)、エミール・デュルケーム (Émile Durkheim、1858~1917)、マックス・ウェーバー (Max Weber、1864~1920) と並び、当時の高名な社会学者として知られる。1914年シュトラスブルク大学の哲学正教授に就任する。
- 1908 ラーエル・シュトラウス (Rahel Straus、1880~1963)、ミュンヘンで産婦人科医院を開業する。彼女はドイツで開業した最初のユダヤ人女性医師となる。1932年「ユダヤ女性同盟」の会長に就任する。
- 1910 パウル・ヨハン・ルートヴィヒ・フォン・ハイゼ (Paul Johann Ludwig von Heyse、1830~1914)、ノーベル文学賞を受賞する。1855年短編「ララビアータ (L'Arrabiata)」、1858年戯曲「サビニの女たち (Die Sabinerinnen)」等、多数の作品を発表する。
- 1910 ヘルヴァルト・ヴァルデン (Herwarth Walden、1878~1941)、文化・美術雑誌「シュトゥルム (Der Sturm)」を創刊し、表現主義芸術家の作品を多数掲載する。1912年画廊を開設し、第1回シュトゥルム展を開催する。
- 1910 オットー・ヴァラッハ (Otto Wallach、1847~1931)、脂環式化合物の研究でノーベル化学賞を受賞する。
- 1911 オーストリアの平和活動家アルフレート・フリート (Alfred Hermann Fried、1864~1921)、ノーベル平和賞を受賞する。
- 1911 オーストリアの小説家・詩人アルベルト・エーレンシュタイン (Albert Ehrenstein、1886~1950)、小説「トゥブツチュ (Tubutsch)」を著す。1916年詩集「人間は叫ぶ (Der Mensch schreit)」、1917年詩集「赤い時代 (Die rote Zeit)」を発表する。
- 1911 フーゴー・ハーゼ (Hugo Haase、1863~1919)、アウグスト・ベーベル (August Bebel、1840~1913) とともに、社会民主党党首に選出される。彼は1897~1907年と1912~19年の間、国会議員を務める。1917年ドイツ独立社会民主党 (USPD: Unabhängige Sozialdemokratische Partei Deutschlands) 結成に参加する。
- 1911 グスタフ・ランダウアー (Gustav Landauer、1870~1919)、「社会主義への呼びかけ (Anruf zum Sozialismus)」を著す。彼は1908年にマルティーン・ブーバー等と共に、社会主義同盟 (Sozialistischer Bund) を結成する。また、バイエルン・レーテ共和国 (Bayerische Räterepublik) 樹立に参加し、1919年教育大臣 (Volksbeauftragter für Volksaufklärung) に就任する。
- 1911 クルト・ブルーメンフェルト (Kurt Blumenfeld、1884~1963)、世界シオニスト会議 (Zionistischer Weltkongress) 事務総長に就任する。1913~14年シオニズム雑誌「世界 (Die Welt)」を編集する。1924~33年ドイツ・シオニスト連合議長に就任する。
- 1912 ユダヤ徒歩旅行団体「ブラウ・ヴァイス (Blau-Weiß)」、設立される。
- 1912 クルト・トゥホルスキー、「ラインスベルク、恋する人のための絵本 (Rheinsberg: Ein Bilderbuch für Verliebte)」を著す。彼は1924年から、ディ・ヴェルトビューネ誌のパリ特派員として様々なペンネームで執筆活動を行う。
- 1912 オーストリアの作曲家・指揮者アルノルト・シェーンベルク (Arnold Schönberg、1874~1951)、「月に憑かれたピエロ (Pierrot Lunaire)」を発表する。1899年「浄められた夜 (Verklärte Nacht)」、1911年「グレの歌 (Gurre-Lieder)」、1926~28年「管弦楽のための変奏曲 作品31 (Variationen für Orchester op.31)」を作曲する。
- 1912 ヤーコブ・シュタインハルト (Jakob Steinhardt、1887~1968)、マイトナー達とともに芸術家集団「激情家 (Die Pathetiker)」を結成する。彼は聖書やユダヤを題材とした多くの版画、絵画を制作する。
- 1912 アルノルト・ツヴァイク (Arnold Zweig、1887~1968)、「クラウディアをめぐる物語 (Novellen um Claudia)」を著す。1915年「ハンガリーの儀式殺人 (Ritualmord in Ungarn)」でクライスト賞 (Kleist-Preis) を受賞する。第一次世界大戦従軍体験をもとに、連作「白人の大戦争 (Der große Krieg der weißen Männer)」を書き始め、

- 1927年「グリーシャ軍曹をめぐる争い (Der Streit um den Sergeanten Grischa)」、1931年「1914年の若妻 (Junge Frau von 1914)」、1935年「ヴェルダン前線での教育 (Erziehung vor Verdun)」等を発表する。
- 1913 ルートヴィヒ・マイトナー (Ludwig Meidner, 1884~1965)、「黙示録的風景 (Apokalyptische Landschaft)」を制作する。彼はドイツ表現主義の代表的画家の一人とされる。
- 1913 作家、シオニスト、出版者のフリッツ・モルデハイ・カウフマン (Fritz Mordechai Kaufmann, 1888~1921)、雑誌「避難所 (Die Freistatt)」を創刊する。
- 1913 エルゼ・ラスカー＝シューラー (Else Lasker-Schüler, 1869~1945)、詩集「ヘブライのパラード (Hebräische Balladen)」を刊行する。彼女は1932年、クライスト賞を受賞する。
- 1913 ラーエル・ヒルシュ (Rahel Hirsch, 1870~1953)、プロイセン王国で医学教授の称号を受けた初めての女性となる。
- 1913 ブルーノ・ヴァルター (Bruno Walter, 1876~1962)、ミュンヘン歌劇場音楽監督に就任する。その後、ベルリン市立歌劇場音楽監督、ライプツヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の常任指揮者等を歴任する。彼は20世紀を代表する指揮者の1人とされる。
- 1914 第1次世界大戦が勃発する。
- 1914 東欧ユダヤ人を支援する「東方委員会 (Komitee für den Osten)」が結成される。
- 1914 「ユダヤ人学生組合連合 (Kartell Jüdischer Verbindungen)」が結成される。連合は、「ユダヤ人学生同盟 (Bund Jüdischer Corporationen)」と「シオニスト学生組合連合 (Kartell Zionistischer Verbindungen)」の合併により誕生する。ドイツの大学、ウィーン大学、リガ大学に合計約2000人以上の会員を擁する団体となる。
- 1914 ローベルト・バーラーニ (Robert Barany, 1876~1936)、内耳の生理・病理学的研究でノーベル生理学・医学賞を受賞する。
- 1914 ヤーコプ・レーヴェンベルク (Jakob Loewenberg, 1856~1929)、自伝的長編小説「二つの源から (Aus zwei Quellen)」を刊行する。彼は1891年、ハンブルクの「文学協会 (Literarische Gesellschaft)」のメンバーとなる。1892年には私立女子高等中学校の校長に就任する。
- 1914 ヴァルター・ハーゼンクレーヴァー (Walter Hasenclever, 1890~1940)、戯曲「息子 (Der Sohn)」を発表する。彼は1917年、悲劇「アンティゴネー (Antigone)」によりクライスト賞を受賞する。
- 1914 アルフレート・ヴォルフエンシュタイン (Alfred Wolfenstein, 1883~1945)、詩集「神なき歳月 (Die gottlosen Jahre)」を発表する。1919年文学雑誌「蜂起 (Die Erhebung)」を創刊する。
- 1915 フランツ・カフカ (Franz Kafka, 1883~1924)、「変身 (Verwandlung)」を著す。1925年「審判 (Der Prozeß)」を発表する。
- 1915 リヒャルト・マルティン・ヴィルシュテッター (Richard Martin Willstätter, 1872~1942)、クロロフィル研究でノーベル化学賞を受賞する。
- 1916 「ユダヤ市民ホーム (Jüdisches Volksheim)」がベルリンで開設され、ユダヤ人のための教育福祉施設として利用される。
- 1916 マルティーン・ブーバーらによって月刊誌「ユダヤ人 (Der Jude)」が創刊される。
- 1916 「ユダヤ人調査 (Judenählung)」が実施される。ユダヤ人は戦争を回避している、卑怯者である、という反ユダヤ的偏見に対して、プロイセンの国防大臣がユダヤ人兵士の実態を調査する。その結果、従軍ユダヤ人兵士の割合は非ユダヤ人と変わらず、多くのユダヤ人兵士が前線勤務をしていることが明らかになる (ユダヤ人兵士数は約8万5000人、内戦死者は約1万2000人)。この調査結果の公表は終戦まで見送られる。
- 1917 「ドイツ・ユダヤ人中央福祉センター (Zentralwohlfahrtsstelle der deutschen Juden)」がベルリンで設立される。東欧からの移住者支援、青少年保護、困窮者支援等の活動が行われる。
- 1917 核物理学者リーゼ・マイトナー (Lise Meitner, 1878~1968)、オットー・ハーン (Otto Hahn, 1879~1968) との共同研究で、元素プロトアクチニウム (Protactinium) を発見する。1922年ベルリン大学の員外教授に就任する。
- 1918 「ドイツ東欧ユダヤ人権利擁護団体連合 (Vereinigung jüdischer Organisationen Deutschlands zur Wahrung der Rechte der Juden des Ostens)」がベルリンで結成される。「ドイツ・ユダヤ人援助協会」、「東方委員会」、「ユダヤ教徒ドイツ中央協会」、「ドイツ・シオニスト連合」等、多くのユダヤ系組織を傘下に置く上部団体になる。
- 1918 ドイツに移住、流入してきた東欧ユダヤ人を対象とする「ドイツ・ユダヤ人労働者社会福祉局 (Arbeiterfürsorgeamt der jüdischer Organisationen Deutschlands)」がベルリンで設立される。
- 1918 フリッツ・ハーバー (Fritz Haber, 1868~1934)、アンモニアの合成でノーベル化学賞を受賞する。

- 1918 エルンスト・ブロッホ (Ernst Bloch、1885~1977)、「ユートピアの精神 (Geist der Utopie)」を著す。
- 1918 クルト・アイスナー (Kurt Eisner、1867~1919)、バイエルン共和国初代首相に就任し、ドイツで初めてのユダヤ人首相となる。彼は、1898年ドイツ社会民主党 (SPD: Sozialdemokratische Partei Deutschlands) に入党し、党機関誌「前進 (Vorwärts)」編集員となる。1917年ドイツ独立社会民主党創設に加わる。1918年ミュンヘン革命を主導する。
- 1919 ヴァイマル共和国 (Weimarer Republik) が成立する。
- 1919 「帝国ユダヤ人前線同盟 (Reichsbund jüdischer Frontsoldaten)」、ベルリンで設立される。ユダヤ人は卑怯者だったという、事実と反する反ユダヤ的非難に対抗するため、一級鉄十字章保持者で旧陸軍大尉のユダヤ人レーオ・レーヴェンシュタイン (Leo Löwenstein、1879~1956) が設立する。
- 1919 「ユダヤ学アカデミー (Akademie für die Wissenschaft des Judentums)」、ベルリンで設立される。ユダヤ人の学術の振興、若手研究者の育成等を目的とする。
- 1919 「ユダヤ民族政党 (Jüdische Volkspartei)」、結成される。
- 1919 「在独東欧ユダヤ人連盟 (Verband der Ostjuden in Deutschland)」、ベルリンで設立される。東欧ユダヤ人難民及び、移住者の支援を目的とする。
- 1919 バイエルン共和国初代首相クルト・アイスナー、暗殺される。
- 1919 ローザ・ルクセンブルク (Rosa Luxemburg、1871~1919)、殺害される。彼女はポーランド出身で、1898年にドイツ国籍を取得し、社会民主党に入党する。1913年「資本蓄積論 (Die Accumulation des Kapitals)」を著す。第一次世界大戦中にスパルタクス団 (Spartakusbund) を結成する。1918年カール・リープクネヒト (Karl Liebknecht、1871~1919) 等とともにドイツ共産党 (KPD: Kommunistische Partei Deutschlands) を創設する。
- 1919 オットー・ランズベルク (Otto Landsberg、1869~1957)、シャイデマン内閣 (Kabinet Scheidemann) の法務大臣に就任する。彼は1924~33年の間、社会民主党国会議員を務める。
- 1919 フーゴー・プロイス (Hugo Preuß、1860~1925)、シャイデマン内閣の内務大臣に就任する。彼は1906年にベルリン商科大学教授に就任する。1918年ドイツ民主党 (Deutsche Demokratische Partei) 結成に参加する。1918年共和国憲法を起草する。
- 1919 ヘルマン・コーエン (Hermann Cohen、1842~1918) の遺著「ユダヤ教の源泉からの理性の宗教 (Die Religion der Vernunft aus den Quellen des Judentums)」、発行される。彼は新カント派の哲学者で、1876年マールブルク大学の哲学正教授に就任する。1902年「純粹認識の論理学 (Logik der reinen Erkenntnis)」、1904年「純粹意志の倫理 (Ethik des reinen Willens)」、1914年「純粹感情の美学 (Ästhetik des reinen Gefühls)」を著す。
- 1919 フランツ・オッペンハイマー (Franz Oppenheimer、1864~1943)、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マインでドイツ最初の社会学・経済学教授に就任する。1908年「国家論 (Der Staat)」を著す。
- 1919 「自由ユダヤ民衆大学 (Freie Jüdische Volkshochschule)」、ベルリンで設立される。
- 1919 エルンスト・カッシーラー (Ernst Cassirer、1874~1945)、ハンブルク大学哲学正教授に就任する。1929~30年学長を歴任する。1923~29年「シンボル形式の哲学 (Philosophie der symbolischen Formen)」、1932年「啓蒙主義の哲学 (Die Philosophie der Aufklärung)」を著す。
- 1919 エルンスト・トララー (Ernst Toller、1893~1939)、獄中で表現主義的戯曲「変転 (Die Wandlung)」を著す。彼は第1次世界大戦に従軍後、ミュンヘン革命とバイエルン・レーテ共和国に関与した罪で、禁固刑を受ける。1921年「群衆 人間 (Masse Mensch)」、1923年「ヒンケマン (Hinkemann)」を発表する。
- 1919~22建築家エーリヒ・メンデルゾーン (Erich Mendelsohn、1887~1953)、「アインシュタイン塔 (Einsteinturm)」をポツダムに建設する。彼は、ベルリンの「ドイツ金属労働組合本部 (Haus des Deutschen Metallarbeiterbandes)」、ケムニッツの「ショッケン百貨店 (Kaufhaus Schocken)」等、多数の建築物を手がける。
- 1920 エーミール・ルートヴィヒ (Emil Ludwig、1881~1948)、「ゲーテ伝 (Goethe)」を著す。1921年「ビスマルク伝 (Bismark)」、1924年「ナポレオン伝 (Napoleon)」、1925年「ヴィルヘルム2世伝 (Wilhelm der Zweite)」等の伝記小説を発表し、伝記作家として人気を博す。
- 1920 文学研究家フリードリヒ・グンドルフ (Friedrich Gundolf、1880~1931)、ハイデルベルク大学教授に就任する。1911年「シェイクスピアとドイツ精神 (Shakespeare und der deutsche Geist)」、1916年「ゲーテ (Goethe)」、1920年「ゲオルゲ (George)」を著す。
- 1920 マックス・リーバーマン (Max Liebermann、1847~1935)、プロイセン芸術院 (Preußische Akademie der Künste)

の総裁に就任する。彼はドイツ印象派の代表的画家とされ、1899年芸術革新運動ベルリン分離派 (Berliner Secession) を主導する。1872年「ガチョウの羽をむしる女達 (Die Gänserrupferinnen)」、1880年「アムステルダムの老人ホーム (Altmännerhaus in Amsterdam)」、1883/84年「ミュンヘンのビアガーデン (Münchener Biergarten)」、1905年「アムステルダムのユダヤ人街 (Judengasse in Amsterdam)」等、多数の作品を制作する。

- 1920 国家社会主義ドイツ労働者党 (NSDAP: Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei)、「25カ条綱領 (25-Punkte-Programm)」を採択する。
- 1920 フランツ・シュレーカー (Franz Schreker, 1878~1934)、ベルリンの音楽大学学長に就任する。彼はオーストリアの作曲家・指揮者であり、当時最も上演回数の多いオペラ作曲家の一人とされる。
- 1920 バイエルンにおけるユダヤ共同体の上部連合団体である「バイエルン・イスラエルの民共同体連盟 (Verband Bayerischer Israelitischer Gemeinde)」、ニュルンベルクで結成される。
- 1920 学びたい者に開かれた教育施設「ユダヤ自由学舎 (Freies Jüdisches Lehrhaus)」がフランクフルトで設立される。講師には、マルティーン・ブーバー、ゲルショム・ショーレム (Gershom Scholem, 1897~1982)、エーリヒ・フロム (Erich Fromm, 1900~1980)、ジークフリート・クラカウアー (Siegfried Kracauer, 1889~1966)、ナートン・ビルンバウム、レオ・レーヴェンタール (Leo Löwenthal, 1900~1993) 等が名を連ねる。
- 1920 シュテファン・ツヴァイク (Stefan Zweig, 1881~1942)、「三人の巨匠 (Drei Meister)」を著す。彼は、1929年「ジョセフ・フーシェ (Joseph Fouche)」、1932年「マリー・アントワネット (Marie Antoinette)」等、多数の伝記小説を発表する。
- 1921 「ドイツ民族主義ユダヤ人連盟 (Verband Nationaldeutscher Juden)」が設立される。
- 1921 ヤーコブ・ヴァッサーマン (Jakob Wassermann, 1873~1934)、「ドイツ人及び、ユダヤ人としての我が人生 (Mein Weg als Deutscher und Jude)」を著す。1928年には「マウリーツィウス事件 (Der Fall Maurizius)」を発表する。
- 1921 アルベルト・アインシュタイン (Albert Einstein, 1879~1955)、光電効果の研究でノーベル物理学賞を受賞する。
- 1921 フランツ・ローゼンツヴァイク (Franz Rosenzweig, 1886~1929)、「救済の星 (Der Stern der Erlösung)」を著す。彼は1920年に「ユダヤ自由学舎」の校長に就任する。
- 1922 オーストリアの作曲家、音楽学者エゴン・ヴェレス (Egon Wellesz, 1885~1974)、「国際現代音楽協会 (Internationale Gesellschaft für Neue Musik)」を共同設立する。彼は1929年にウィーン大学の員外教授に就任する。
- 1922 オットー・フリッツ・マイヤーホフ (Otto Fritz Meyerhof, 1884~1951)、筋肉中の酸素消耗と乳酸産出の研究でノーベル生理・医学賞を受賞する。
- 1922 「プロイセン州・ユダヤ共同体連盟 (Preußischer Landesverband jüdischer Gemeinden)」、ベルリンで創立される。連盟にはプロイセンのユダヤ人の約7割が参加する。連盟は、ユダヤ共同体の利益代表になるとともに、弱体化している共同体への財政支援、ベルリンとブラウナウの教育施設やミュンスターとケルンの教員養成校への助成等を行う。
- 1922 ヴァイマル共和国外相ヴァルター・ラーテナウ、暗殺される。
- 1922 モーリツ・ハイマン (Moritz Heimann, 1868~1925)、戯曲「アキバの女 (Das Weib des Akiba)」を発表する。彼は1895年、フィッシャー出版社 (S.Fischer Verlag) の編集者になる。
- 1923 アガテ・ラッシュ (Agathe Lasch, 1879~1942)、ハンブルク大学より女性初となる教授の称号を受ける。彼女はドイツで最初の女性のドイツ語学・文学の大学教授であり、中世低地ドイツ語研究で優れた業績を残す。
- 1923 マルティーン・ブーバー、「我と汝 (Ich und Du)」を刊行する。同年、フランクフルト大学で宗教学とユダヤ教倫理を講じる。
- 1923 アドルフ・ヒトラー (Adolf Hitler, 1889~1945)、ヒトラー一揆 (Hitler Putsch) を起こす。
- 1924 ヴェルナー・ショーレム (Werner Scholem, 1895~1940)、ドイツ共産党国会議員となる。彼はドイツ独立社会民主党を経て、1920年にドイツ共産党に入党する。1921~24年プロイセン地方議員、1924~28年国会議員を務める。1926年共産党を除名される。
- 1924 ジョン・ハートフィールド (John Heartfield、本名ヘルムート・ヘルツフェルト Helmut Herzfeld, 1891~1968)、フォトモンタージュ「10年後 父たちと息子たち (Nach zehn Jahren - Väter und Söhne)」を発表する。1916年ドイツのナショナリズムとイギリス敵視傾向に抗してジョン・ハートフィールドと改名する。1917年ベルリンで弟

- とマリク出版社 (Malik Verlag) を設立する。1919年ドイツ共産党に入党、ベルリン・ダダ運動 (Dada-Bewegung) に加わる。1930年から「労働者グラフ雑誌 (Arbeiter-Illustrierte-Zeitung)」に、社会風刺のフォトモンタージュ作品を掲載する。
- 1925 ジェイムズ・フランク (James Franck、1882~1964) とグスタフ・ルートヴィヒ・ヘルツ (Gustav Ludwig Hertz、1887~1975)、電子の原子に対する衝突を支配する法則の発見でノーベル物理学賞を受賞する。
- 1925 「イディッシュ語学術文化研究所 (YIVO: Yidisher Visnshafteleker Institut)」、ベルリンで設立される。
- 1925 リオン・フォイトヴァンガー (Lion Feuchtwanger、1884~1958)、「ユダヤ人ジュース (Jud Süß)」を著す。
- 1925 アリス・ザーロモン (Alice Salomon、1872~1948)、「女性社会福祉職・教育職のためのドイツ学院 (Deutsche Akademie für soziale und pädagogische Frauenarbeit)」を設立する。彼女は、1893年に「社会福祉援助活動のための女性グループ (Mädchen- und Frauengruppen für soziale Hilfsarbeit)」に加わり、1899年から代表となる。1908年「女性社会福祉学校 (Soziale Frauenschule)」を設立する。1914年にプロテスタントへ改宗する。1917年には「ドイツ女性社会福祉学校会議 (Konferenz sozialer Frauenschulen Deutschlands)」議長に就任する。
- 1927 「ユダヤ百科事典 (Jüdisches Lexikon)」第1巻が刊行される。
- 1927 アンナ・フロイト (Anna Freud、1895~1982)、「児童分析技術入門 (Einführung in die Technik der Kinderanalyse)」を著す。彼女はジークムント・フロイトの娘で、児童精神分析の開拓者とされる。
- 1927 美術史家エルヴィン・パノフスキー (Erwin Panofsky、1892~1968)、ハンブルク大学正教授に就任する。1924年「イデア (Idea)」、1927年「象徴形式としての遠近法 (Die Perspektive als symbolische Form)」を著す。彼は、イコノロジー (図像解釈学) を体系化する。
- 1928 アンナ・ゼーガース (Anna Seghers、1900~1983)、「聖バルバラの漁民の蜂起 (Aufstand der Fischer von St. Barbara)」を著す。彼女はこの作品により、クライスト賞を受賞する。1928年ドイツ共産党に入党する。
- 1928 ヴァルター・ベンヤミン (Walter Benjamin、1892~1940)、「ドイツ悲劇の根源 (Ursprung des deutschen Trauerspiels)」を著す。主著として、1935年「パサージュ論 (Das Passagen-Werk)」、1936年「複製技術の時代における芸術作品 (Das Kunstwerk im Zeitalter seiner technischen Reproduzierbarkeit)」等が挙げられる。
- 1928 クルト・ヴァイル (Kurt Weill、1900~1950) 作曲、ベルトルト・ブレヒト (Bertolt Brecht、1898~1956) 作の「三文オペラ (Die Dreigroschenoper)」がベルリンで初演される。
- 1929 アルフレート・デーブリン (Alfred Döblin、1878~1957)、「ベルリン・アレクサンダー広場 (Berlin Alexanderplatz)」を著す。1915年「王倫の三跳躍 (Die drei Sprünge des Wang-Lun)」により、フォンターネ賞 (Fontane-Preis) を受賞する。1920年には「ヴァレンシュタイン (Wallenstein)」を著す。
- 1929 ハンナ・アレント (Hannah Arendt、1906~1975)、ハイデルベルク大学のカール・ヤスパーズ (Karl Jaspers、1883~1969) の指導の下、博士論文「アウグスティヌスの愛の概念 (Der Liebesbegriff bei Augustin)」を発表する。
- 1930 9月14日のドイツ国会選挙 (Reichstagswahl) で NSDAP が 12 議席から 107 議席に大躍進し、ドイツ社会民主党に次ぐ第2党となる。
- 1930 バイエルン州議会、「動物の屠殺についての法律 (Gesetz über das Schlachten von Tieren)」を可決する。ユダヤ教徒は、ユダヤ法に則った家畜の処理ができなくなる。
- 1930 マックス・ホルクハイマー (Max Horkheimer、1895~1973)、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学の社会哲学正教授及び、大学付属の社会問題研究所 (Institut für Sozialforschung) 所長に就任する。彼はフランクフルト学派 (Frankfurter Schule) の指導者である。
- 1931 オットー・ハインリッヒ・ワールブルグ (Otto Heinrich Warburg、1883~1970)、細胞呼吸の研究でノーベル生理・医学賞を受賞する。
- 1932 オーストリアの作家ヨーゼフ・ロート (Josef Roth、1894~1939)、「ラデツキー行進曲 (Radetzky Marsch)」を著す。彼の主な作品に、1924年「サヴォイ・ホテル (Hotel Savoy)」、1927年「果てしなき逃走 (Die Flucht ohne Ende)」、1939年「聖なる酔っぱらいの伝説 (Die Legende vom heiligen Trinker)」等がある。
- 1932 7月31日のドイツ国会選挙で NSDAP が第1党となる。
- 1933 「ユダヤ博物館 (Jüdisches Museum)」、ベルリンで開館される。1938年に閉館される。
- 1933 ヒトラーが首相に就任し、ヒトラー内閣が成立する。
- 1933 ヴィルヘルム・ライヒ (Wilhelm Reich、1897~1957)、「ファシズムの大衆心理 (Massenpsychologie des Faschismus)」を著す。

- 1933 フランツ・ヴェルフェル (Franz Werfel, 1890~1945)、「モーセ山の40日間 (Die vierzig Tage des Musa Dagh)」を著す。
- 1933 ドイツ・ユダヤ人の上部組織として「ドイツ・ユダヤ人帝国代表部 (Reichsvertretung der deutschen Juden)」が設立される。1939年「ドイツ帝国ユダヤ人連合 (Reichsvereinigung der Juden in Deutschland)」に強制的に名称変更させられる。
- 1933 芸術的領域から排除されたユダヤ人芸術家達により、「ユダヤ人文化同盟 (Kulturbund Deutscher Juden)」が結成される。

主要参考文献

- 1) 青木良華：近代ドイツにおける「ユダヤ教」をめぐる思想 [東京大学文学部宗教学研究室『東京大学宗教学年報』32、2014、137~156頁]。
- 2) 石田友雄：ユダヤ教史 (山川出版社) 1980。
- 3) 市川裕：ユダヤ教の歴史 (山川出版社) 2009。
- 4) 植村邦彦：「解放」表象の反転—人種主義的反ユダヤ主義の成立 1848-1862 [関西大学『關西大學經濟論集』49(3)、1999、45~60頁]。
- 5) アモン・エロン (滝川義人訳)：ドイツに生きたユダヤ人の歴史 (明石書店) 2013。
- 6) 大澤武男：ユダヤ人最後の楽園 (講談社) 2008。
- 7) 岡田朝雄・リンケ珠子：ドイツ文学案内 (朝日出版社) 2000。
- 8) 小倉欣一：ドイツ中世都市の自由と平和 (勁草書房) 2007。
- 9) 小崎閏一：第1次十字軍時代のユダヤ人迫害 [志學館大学『鹿児島女子大学研究紀要』Vol.9 No.1、1988、1~14頁]。
- 10) アブラム・レオン・ザハル (滝川義人訳)：ユダヤ人の歴史 (明石書店) 2003。
- 11) ユーリウス・H・シェプス (石田基広他訳)：ユダヤ小百科 (水声社) 2012。
- 12) ハンス・ユルゲン・シュルツ (山下公子他訳)：彼ら抜きでいられるか。二十世紀ドイツ・ユダヤ精神史の肖像 (新躍社) 2004。
- 13) L・ゾーヴェルス (清水健次訳)：ドイツにおけるユダヤ人の歴史 (教育開発研究所) 1990。
- 14) 田村雲供：フロイトのアンナO嬢とナチズム (ミネルヴァ書房) 2004。
- 15) 中島健二：第1回十字軍とユダヤ人迫害。日常性と事件性の連関 [金沢大学『金沢大学經濟論集』37、2000、83~118頁]。
- 16) 長田浩彰：ドイツ・ユダヤ人と「同化」 [広島大学総合科学部『地域文化研究』18巻、1992、29~52頁]。
- 17) 長田浩彰：あるべき「ドイツ・ユダヤ人」像の模索 [広島史学研究会『史学研究』208号、1995、39~57頁]。
- 18) 長田浩彰：「ドイツシオニスト連合」の成立 [広島史学研究会『史学研究』184号、1989、39~61頁]。
- 19) 長田浩彰：第1次世界大戦期のドイツ・ユダヤ人の動向 [広島大学総合科学部『地域文化研究』17巻、1991、91~118頁]。
- 20) 長田浩彰：ドイツ第二帝制期の反セム主義に対する防衛 [広島史学研究会『史学研究』176号、1987、48~67頁]。
- 21) 長田浩彰：ドイツ・ユダヤ人の「同化」とその影響 [広島大学総合科学部『地域文化研究』19巻、1993、33~58頁]。
- 22) 羽田功：キリスト教会とユダヤ人 [慶應義塾大学藝文学会『藝文研究』Vol.81、2001、83~107頁]。
- 23) 藤井良彦：ベルリン自由学校について—最初のフリースクール— [日本ユダヤ学会『ユダヤ・イスラエル研究』第29号、2015、1~11頁]。
- 24) 古田善文：オーストリアにおける迫害の記憶 (1) [獨協大学『獨協大学ドイツ学研究』53、2005、39~58頁]。
- 25) ミヒャエル・ブレンナー (上田和夫訳)：ワイマール時代のユダヤ文化ルネサンス (教文館) 2014。
- 26) ジョージ・L・モッセ (三宅昭良訳)：ユダヤ人の<ドイツ> (講談社) 1996。
- 27) レオン・ポリアコフ (菅野賢治訳)：反ユダヤ主義の歴史 I、II、III (筑摩書房) 2005。
- 28) 柳川平太郎：プロイセン絶対主義成立期のユダヤ教徒政策 [高知大学『高知大学學術研究報告』第53巻 社会科学編、2004、19~31頁]。
- 29) 柳川平太郎：プロイセン絶対主義下ヒンターポメルンのユダヤ人社会 [高知大学『高知大学學術研究報告』第54巻 人文科学編、2005、29~37頁]。
- 30) 丸山空大：「ユダヤ教の本質」をめぐる論争と世紀転換期のドイツ・ユダヤ教 [一橋大学大学院社会学研究科『一橋社

会科学』6、2014、33～50頁]。

- 31) Eli Barnavi : Universal Geschichte der Juden (dtv) 2004.
- 32) Arno Herzig (Hrsg.) : Die Geschichte der Juden in Deutschland (Ellert & Richter) 2013.
- 33) Johann Maier : Jüdische Geschichte in Daten (Beck) 2005.
- 34) Andreas Reinke : Geschichte der Juden in Deutschland 1781-1933 (WBG) 2007.
- 35) Shulamit Volkov : Die Juden in Deutschland 1780-1918 (OLDENBOURG) 2000.
- 36) Geschichte der Juden in Deutschland <https://de.wikipedia.org/wiki/Geschichte_der_Juden_in_Deutschland>
(2016年3月14日閲覧)
- 37) Geschichte der Juden in Deutschland <http://www.zwst4you.de/geschichte_der_juden_in_deutschland/index1.html>
(2016年5月9日閲覧)
- 38) Rahel Hirsch <<https://www.deutsche-biographie.de/gnd120141957.html#ndbcontent>> (2016年9月15日閲覧)
- 39) Jüdische Gemeinde Speyer <https://de.wikipedia.org/wiki/J%C3%BCdische_Gemeinde_Speyer> (2016年3月21日閲覧)
- 40) Jüdische Geschichte Zeitleiste <<https://www.historicum.net/themen/juedische-geschichte/zeitleiste>>
(2016年4月20日閲覧)
- 41) Jüdisches Leben in Deutschland <<http://www.bpb.de/izpb/7643/juedisches-leben-in-deutschland>>
(2016年3月30日閲覧)
- 42) Zeittafel zur Geschichte der Juden in Deutschland bis 1933.
<<http://www.juden-in-sachsen.de/deutschland-bis-1933.html>> (2016年3月2日閲覧)
- 43) ZEITTADEL BEDEUTENDER EREIGNISSE IN DER GESCHICHTE DER JUDEEN IN DEUTSCHLAND
<<http://hagalil.com/deutschland/history/hst-0.htm>> (2016年3月21日閲覧)